青山同窓會報

創刊
第100号
記念

《発行所》
青山同窓会
〒951-8127 新潟市中央区関屋下川原町2-635
新潟県立新潟高等学校内
TEL 025-266-5268
FAX 025-266-5268

《編集・発行人》
長谷川義明

《印刷所》
株式会社第一印刷所
〒950-8724 新潟市中央区和合町2-4-18
TEL 025-285-7161
FAX 025-282-1776

新年のご挨拶

青山同窓会会長
長谷川　義明（61回）'53卒

新年おめでとう御座います。青山同窓会会員の皆様におかれましてはお健やかに新春をお過ごしのこととお慶び申しあげます。

昨年は台風が4回も本州に上陸しました。集中豪雨を伴い、特に傾斜地の崩壊などの危険が改めて認識されました。フィリピンの台風被害では高さ5～6メートルもの高潮が津波のように押し寄せたということで、改めて台風による高潮被害の危険も認識された年でした。越佐海峡に竜巻なども観測され、かつて江戸時代新潟湊に竜が出たという伝え話も現実味があるように思えました。

若い世代の皆様におかれては1年1年経験をつみ重ねて、職場にあっても家庭にあっても益々充実した生活実現に進んで居られることと思います。しかし年齢を重ねてある程度社会的に役割を果たしてきた世代にとっては、1年1年健康的にもいわゆる加齢現象が加わり、かつての自分ではない状況になってまいります。生老病死の苦があるといわれますが、出来る限り健康状態を保ち、「生きている限り現役」の気持ちで社会貢献を心がけたいものだと思います。最澄に「一隅を照らす者国の宝なり」があります。自分にできることで、たとえ小さいことであるといえども、社会貢献は評価されるべきだということでしょう。

昨年は現役生徒たちの頑張りによって、いわゆる難関大学への進学の成績が素晴らしく、春から大変嬉しいニュースとなりました。特に医学部への進学者数が公立高校としては全国第1位となったとのことですから、たいしたものです。

秋にも嬉しいニュースがありました。59回卒の小池和男氏が文化功労者として表彰されました。労働経済研究の分野でのご活躍で、特に功績顕著であったと認められたものです。真におめでたいことですし、同窓のわれわれにとっても大変喜ばしいことであります。ご本人は傍流ですよと謙遜して居られますが、東京大学ご卒業後、名古屋大学や京都大学経済研究所教授、所長などを歴任されながら、長年に亘って日本の賃金体系や雇用の問題を肯定的に捉えて研究してこられたようです。研究の動機として生家の職業であった洋服製作などに携わる人たちの労働条件に対する疑問があったと応えて居られました。いろいろな観点から立証するため膨大な聞き取り調査や国際比較などを行われたようです。信念を持って努力を続けられた成果であり、心からお慶び申しあげる次第です。

また11月に行われた新潟市長選挙では、75回卒の篠田昭氏が4選を果たされました。おめでたいことではありますが、得票の内容を見ますと、篠田氏約10万票に対して対立2候補の合計が約17万票という厳しい結果でありました。篠田氏には今後の市政運営について更なるご努力をお願いしたいと思う次第です。

（11月21日記）

青山同窓会新年会のお知らせ

青山同窓会会長　長谷川義明

明けましておめでとうございます。恒例の青山同窓会の新年会を開催いたします。
普段会えない方々と大いに歓談して頂きたいと存じます。
開催要領は下記のとおりです。各期幹事の皆様からも同期の方々に連絡をしていただきたいと存じます。
また参加を希望される方はお誘い合わせて事務局までご一報ください。

青山同窓会事務局：TEL／FAX　025 － 266 － 5268
青山同窓会電子メール アドレス　niigata_aoyama@yahoo.co.jp

記

日　時　**平成27年2月20日(金)**
受付　午後6時
≪新年会は生徒の吹奏楽の演奏はありません≫
開宴　午後6時30分

会　場　**ホテルイタリア軒**
TEL　025－224－5111

会　費　**6,000円**

申し込み締め切り　平成27年2月16日(月)

新年のご挨拶

参議院議員
佐藤のぶあき（74回）'66卒

青山同窓会の皆様、明けましておめでとうございます。今年こそ明るい希望の見える年となるよう祈りながら、年頭のご挨拶を申し上げます。

災害に強いふる里をつくろう、もっと安全に、住みやすく、と国土建設の仕事についてから、早くも40年を越えました。この間、建設省、国土交通省を経て、参議院の全国比例区での7年を含めて、一貫して国土、ふる里のインフラづくりに汗をかいてきました。平成25年12月に成立した国土強靱化基本法にも力を尽くしました。新潟をベースとした全国区の議員として、全国を訪ね、そのまちづくりや災害からの復旧、復興を支援し、国政に反映させています。全国比例区という仕事なので、沖縄から北海道まで平均年に一回はひとまわりしている勘定です。回っていますとつくづく「人間（じんかん）、到る所青山（せんざん）あり」と感じる機会があります。本来の意味は「世界中、到るところ住みついたら、ふる里であり、墳墓の地となる」という意味と教えられましたが、私の場合「全国各地で、青山（あおやま）の同窓会が活躍しているなあ」と感ずる、という意味です。それだけ我が青山同窓会は志を持って各地で活躍してくれています。例えば仙台では74回同級の木下真由美さんが、一番町で「豆や」という金つばやさんを開いて、良く同窓生達が集まっています。ふる里新潟の人情の良さ、風景の良さ、食べ物のおいしさに花が咲きます。皆様も仙台に行く機会があれば、一度是非訪ねてあげて下さい。

青山の同窓生が全国各地で活躍することは有難いのですが喜んでばかりもいられません。新潟県の人口が毎年一万六千人も減り続けることは頭が痛い大問題です。新潟は国家戦略特区に選ばれました。国土強靱化の日本海側の拠点としても大きな役割を担って行かなければなりません。そうした中でどのように人材を育て、新潟で活躍してもらえるか、その環境づくりが大事な課題と考えています。我々が提唱する地方創生、というのはこれから中味をつくり出して行く必要があります。Iターン Jターンできる雇用、産業も整えて行かねばなりません。恵まれた自然、資源、環境を活かして、新潟は元気だぞ、と日本中に誇れる明るい年となるよう心から祈念致します。

新春ご挨拶

衆議院議員
鷲尾 英一郎（103回）'95卒

新年あけましておめでとうございます。

青山同窓会の皆様におかれましては、日々益々ご清祥の段、お慶び申し上げます。

さて、突発的な衆議院総選挙を経て、4期目の当選を果たすことができました。大変厳しい選挙でしたが、これも皆様からのお力添えあってのことと、衷心より感謝申し上げます。

議員活動も10年目を迎えましたが、この間の政争と、国家への使命感との間での板挟みに、忸怩（じくじ）たる思いを鬱積させる日々が続いております。

消費税増税は先送りしたが、一方で議員定数の削減がいまだならず、国民の政治への不信を呼んでおります。また、急激な円安はごく一部の大企業を潤しても、円安により国内生産が増えないことから、すでに中小企業、地方への景気の波及経路はかなり疑問視されているとともに、実質所得の減少が消費の減退を招いております。消費税の再増税は2年後。これまでの経済政策が続く中で、選択肢が狭まる中、閉塞感の打破へ与野党を超えて一致結束すべきところです。

しかし、この度の総選挙以降、都市部と地方の経済格差は益々広がり、人口減少の蟻地獄は続いていくと感じております。

特に、平成26年産の米の価格は過去最低を記録しており、円安による資材高騰と相俟って、新潟の基幹産業のひとつである農業がより一層疲弊しております。一部から、補助金漬け、政治力の濫用の廉で非難される農業界ですが、食糧自給率の確保、農村の多面的機能の維持、地域の賑わいとしての核たる存在感を考慮すれば、納税者の理解も得られると思います。日本の農業従事者のうち、30代以下は、実に4％でしかない、という事実を省みればその異常な実態もイメージできると存じます。

建設業は30代以下の従事者の割合が10パーセントで人不足から今年から外国人活用の道が大幅に広くなります。人材がいないという成長制約は経済への実態的な重しになります。人材育成には、中長期的なビジョンと創意工夫が必要です。

政治リーダーの役割は今こそ高まっていると思います。混迷の時代にあっては本物が必要です。政治家の役割は詰まる所、国家観、歴史観、教養、胆力、人脈を備えた上で、どんな状況においても冷静沈着に国家としての決断を行い続けることだと考えております。

一時の感情や空気で政治を選ぶと結局政治は漂流し、割を食うのは国民自身です。政治や政党を育てていくには、一定期間の時間も必要です。

また、政党同士が切磋琢磨しあわなければ、競争原理がなければ、議席の偏りが著しければ政策は歪み、政治サービスは低下すると考えねばなりません。

混迷の時代ですが、丈夫健児として恥ずかしくないよう、精一杯努力して参りたいと存じます。平成27年が青山同窓会の皆様、並びに、新潟高校に関係するみなさまにとって佳き年になりますよう衷心より祈念し、新年のご挨拶といたします。

どこへでも飛んでいく代議士に

衆議院議員　石﨑　徹（110回）'02卒

青山同窓会の皆様、新年明けましておめでとうございます。おかげさまで昨年12月に行われた総選挙で2期目の当選を果たし、こうして新しい年を希望に満ちて迎えられますのも、皆様のご支援とご協力の賜物と改めて感謝申し上げます。1期目の間、私は衆議院経済産業委員の立場から産業の競争力の強化や、成長戦略の策定、資源エネルギー戦略などの仕事に尽力いたしました。また、昨年3月に選定された新潟市の国家戦略特区提案につきましては、関係省庁、新潟市、新潟経済同友会と協議を重ね、総理官邸で菅官房長官に要望を行うなど国会議員の立場から全面的に支援をしてきました。新潟がこの選定を受け、食・農業特区として新潟の強みを日本の強みとして日本全体の成長を引っ張っていく、そして世界に冠たる「食花の都」として発展してゆく地域になるよう私も微力ながら力を尽くしていきたいと考えております。

地元活動では、支援者とのふれあいを重視しています。昨年の通常国会閉会後には徹底的に地元を歩き、地元の皆様の声をお聞きしてきました。さらに、語らいの場、〝潟RIBA〟を定期的に開催しています。「代議士と気軽に語ろう」をコンセプトとして、幅広い世代の方々と語らう機会を積極的につくり、新潟高校の関係の皆様含め多くの方々とお会いし、地域の色々な課題、国政について多くの意見を頂戴しました。新潟各地の多くのお祭りや各種イベントに積極的に参加させていただいておりますが、様々な場所で新潟高校の関係の皆様にお会いし、励ましの言葉を数多く頂戴し心からの励みとなっています。周りの方々で、政治に興味のある方や、代議士に直接話をしたいという方がおられましたら、ぜひ事務所までご連絡頂ければ幸いです。

選挙中にもお訴えしましたが、もう一度新潟と日本に希望と自信を取り戻したい、新潟の皆様が明るく前向きな気持ちで生きていける地域・国にしたいという目標を掲げて精力的に活動を行っています。経済成長により、生み出した富を社会保障や更なる成長のために再投資をしていく、そういった好循環を創出していきたいと思います。30歳という与党最年少の若さとフットワークの軽さで、今年もより一層気持ちを引き締め、私にできることを一つ一つ積み上げていきたいと存じます。

最後になりますが、青山同窓会の皆様にとって素晴らしい一年となりますよう衷心より祈念申し上げます。引き続き変わらぬご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、新年のご挨拶とさせて頂きます。今年一年、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

―新潟の可能性を最大限に切り開く―

新潟市長　篠田　昭（75回）'67卒

青山の皆さま、新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

昨秋の新潟市長選では青山の皆さまに支えられ、4期目の当選を果たすことができました。青山の皆さまに深く感謝申し上げます。

4度目の選挙で私は「新潟市の可能性を最大限に切り開く」ことを訴えてまいりました。まずは本州日本海側のセンターに位置する地理特性を活かし、平時の拠点化を進め、足元の安全度を上げながら新潟を「防災・救援首都」にしていく取り組みを進めます。幸い、国の国土強靭化地域計画策定モデル調査第1次実施団体に本州日本海側で唯一選ばれていますので、まずは計画を年度内につくっていきます。

また、今年は新潟が日中韓の文化交流拠点となる「東アジア文化都市」に指定されたことを受け、日中韓の関係改善を新潟から実践し、本市を北東アジアの「平和・共生・交流センター」としてまいります。

日本一の大農業都市である本市が農業戦略特区に指定された特区効果も最大限に引き出し、農村地帯が付加価値を取れ、雇用も生まれる6次産業化を進め、大地や農業の力を子育て・教育・福祉などに活かす12次産業化を全域で推進していきます。

人口問題への適切な対応は待ったなしです。身近な地域で医療・介護が受けられるよう小規模多機能型施設をきめ細かくつくり、住宅リフォームを支援して、地域や自宅で看取りまで可能にする支えあいの仕組みをつくります。

健康寿命の延伸のため健康づくりとまちづくりを連携させ、歩いて楽しく自転車や公共交通で移動しやすい持続可能なまちをつくります。新潟が目指すまちの姿は、地域それぞれのまちなかでお年寄りが憩い、若者や子どもたちの歓声が響くまちです。そのためにバス交通を持続可能なものにする新バスシステム・BRTをスタートさせます。BRTにはまだまだ説明不足な点がありますので、正しい情報を今後も積極的にお届けします。

子育て支援はこども医療費助成の対象を拡大するなど、「子育てするなら新潟市」と言っていただけるよう努めます。若者の流出を防ぎ、流入を促すため、大学・専門学校の新設・拡充を支援し、軌道に乗りつつある航空機部品産業基地化など、多様な働く場をつくってまいりますので、今後もよろしくお願いします。

同窓会総会報告

平成26年度青山同窓会総会

現職員　森　克也（93回）'85卒

平成26年7月11日（金）、ANAクラウンプラザホテル新潟にて、400名を超える同窓生が集い、平成26年度青山同窓会総会と懇親会が開催されました。

総会を前に、本校吹奏楽部生徒によるミニコンサートが催されました。新旧二つの校歌と八つの応援歌によるコラージュ風幻想曲などが披露され、青春のときを思い起こさせるメロディーに参加者は聞き入っていました。

総会は、富山修一幹事長（75回）の司会のもと、長谷川義明会長（61回）、西村正徳東京青山同窓会副会長（72回）、高橋貞夫関西青山同窓会副会長（65回）、片桐一夫東北青山同窓会代表幹事（86回）からのご挨拶をいただきました。その後議事が進められ、創立百二十周年の同窓生からの深い協力により新潟高校の学習環境の整備が進み、国公立大学医学部医学科合格者がついに公立高校で全国一番となるなど、昨年度の卒業生の入試成績結果がすばらしいものとなったことが長谷川会長より報告されました。また、草間俊之校長より、進学実績の向上に加え、陸上とフェンシングにおけるインターハイ優勝や写真部の全国大会での活躍が報告されました。

続く懇親会は、渋谷聡実行委員長（88回）の開会宣言の後、村山朋彦さん（95回）の司会で進められました。長谷川会長、来賓の石崎徹衆議院議員（110回）、佐藤信秋参議院議員（74回）、篠田昭新潟市長（75回）からの挨拶、各方面からのメッセージ披露がありました。さらに藤田実さん（68回）の指揮のもと、参加者全員で新旧校歌を声高らかに斉唱し、敦井栄一副会長（69回）のご発声で乾杯。楽しい歓談が始まり、旧交を温めました。歓談の合間には最多出席回の表彰やお楽しみ抽選会が行われました。卒業年次を超えた交流に笑顔が溢れる会となりました。また、元応援団長の行田充さん（84回）を筆頭に老若男女が登壇し、参加者全員で「ますらお」斉唱。在校生を超えるかのような元気の良さにエネルギーの強さが感じられました。最後に、山内春夫副会長（76回）のご発声による万歳三唱が行われ、同窓会総会・懇親会が閉幕しました。

平成26年度東京青山同窓会総会報告

平成26年11月7日(金) 於ANAインターコンチネンタルホテル東京

原　茂樹（90回）'82卒

急に冷え込みピーカン晴れとなった立冬の11月7日、出席者90余名、本年総会は開催されました。

第一部総会は、野口俊介先輩（84回）の穏やかで丁寧な司会で始まりました。太田裕副会長（71回）の挨拶は、欠席された猪口孝会長（70回）の近況紹介と、若き日の経験談を交え、東京五輪に向け無形のlegacy（おもてなしの心、思いやり、武士道）を持つ日本人の自覚と他国を理解する柔軟な心の会得を呼び掛ける熱いメッセージでした。議事は、日下部朋子事務局長（82回）が会務、佐藤茂会計幹事（77回）が会計を報告、満場一致で承認されました。続いて来賓紹介、同窓会本部より長谷川義明会長（61回）、山内春夫副会長（76回）、母校より草間俊之校長、櫻井麻利子校内幹事（94回）がご出席、長谷川会長からは故郷を離れ活動する東京の同窓会会員への賞賛と労いのお言葉、朗報小池和男先輩（59回）の文化功労者顕彰の紹介がありました。母校音信では、草間校長から今春の大学進学での好成績、及び活発な部活状況が紹介されると、文武両道に邁進する母校の充実振りに出席者から拍手と賞嘆の声が上がりました。

第二部懇親会は、栗林貞一名誉会長（59回）から人材の宝庫『青山』のお話と乾杯のご発声をいただき開会、秀逸のエキジビションは、76回生有志による『ハムレット』第四独白～生か死か～朗読、古川恒一先輩の進行で、テーマ『明治以降の翻訳の変遷』を自慢の俳優陣が忠実且つ情熱的に演じました。熱い歓談をはさみ恒例、校歌を島津孝先輩（84回）円熟の指揮、応援歌、エールを122回生有志の初々しくも颯爽たる指揮のもと斉唱、熱唱。出席者のボルテージが最高潮となったところで池一幹事長（74回）からご挨拶いただき宴はお開きとなりました。

二次会移動の道すがら見上げると新潟から冬の乱層雲が到着、いつしかしっとりと優しい夜となっていました。

東北青山同窓会 第4回総会を開催

東北青山同窓会幹事　塚崎　孝（106回）'98卒

平成26年11月22日（土）、第4回東北青山同窓会を仙台市の江陽グランドホテルで開催しました。当日は案内した東北6県約400名の同窓生のうち、大学生から大先輩の方々を含め38名が出席。本部からも長谷川会長、砂田副会長、本間校内幹事の3名が来賓として駆け付けてくださいました。

総会では、収支予算の承認の後、初代会長として同窓会を盛り立てていただいた濱田敏克氏（71回）以下同窓会役員の退任に伴う次期役員の審議が行われ、会長に加藤博氏（75回）、副会長に笹川稔郎氏（82回）と塩田淳子氏（83回）を選任し、東北青山同窓会の新たな船出を祝いました。

続いて高エネルギー加速器研究機構長の鈴木厚人氏（73回）による「国際リニアコライダー（ILC）計画がめざすもの」と題した記念講演が行われました。ニュートリノやヒッグス粒子などの学術用語を比喩を用いて分かりやすく解説され、ILCの取り組みについてご説明いただきました。ILC計画は、東北地方の北上山地を候補地として誘致を目指しており、その最前線で同窓生が活躍していることに誇りを感じました。

懇親パーティーでは、来賓の長谷川会長から挨拶を、本間校内幹事からは、最近の在校生の活躍ぶりなど、学校の近況をご紹介いただきました。難関大学にも多数進学する現役の活躍ぶりを喜び合いました。

出席者によるスピーチでは、医療、IT、エネルギーや現役の学生による活動紹介なども行われ、懇親の場は和やかな雰囲気となりました。

最後はお待ちかねの応援歌・校歌の大合唱となり、出席者全員が声を張り上げ、「ますらお」の大合唱。アンコールの後、パーティは盛況裡に幕を閉じました。

第5回総会は、来年秋頃開催を予定しております。より多くの皆様のご参加をお待ちしております。

第6回県内高等学校同窓会長有志懇談会参加報告

会報編集委員　金井　利郎（92回）'84卒

11月15日（土）柏崎高校にて出席校20校、43名の参加で標記の会が開催されました。青山同窓会からは敦井榮一副会長と編集委員の金井が参加しました。同会は、平成18年1月に当時の青山同窓会石田瑞穂副会長のご発案で、県内の旧制中学および女学校時代から続いている高校の同窓会に参加を呼び掛けて第1回を青山同窓会主催で出席校12校、参加者34名で開催したのが始まりです。以後は各校の同窓会持ち回りで行っています。

懇談会は校内見学の後、柏中・柏高同窓会（柏崎高校）の土田慎吾会長、柏崎高校の上野順治校長のあいさつで始まり、その後、各校の現状報告、課題についての意見交換がなされました。課題については6つのテーマ（①同窓会の活力、②スタッフ、③会員、④総会、⑤会費、⑥支部）があがりまして、特に①同窓会の活力で、柏中・柏高同窓会の事例が皆の興味を引きました。

柏中・柏高同窓会では総会の運営を卒業期ごとの輪番制にして、6年に1回当番として受け持つ仕組みにしています。その年の18歳、24歳、30歳、36歳、42歳、48歳、54歳、60歳の先輩後輩で助け合い、受付から総会・懇親会の運営を手掛けるそうです。実際には30歳代までの若手は仕事や学校の関係もあり無理に誘うことはしないそうですが、同窓会への若手の参加意識も高まる素晴らしい事例だと思いました。

懇談会の後は柏崎ふるさと人物館を見学しました。柏崎の歴史を築いた人たちの貴重な歴史資料が展示されています。多くの先人たちの中で間宮林蔵と共に樺太調査を行なった松田伝十郎の話が特に心に残りました。最初に海峡を発見したのは松田伝十郎なのに、間宮海峡として歴史に残っている事実を知り、自分はアピールせずに若手に譲ったのか？　新潟県人の奥ゆかしさ故の悲劇なのかと残念に思いました。こういう歴史をどう伝えていくか、重要なテーマです。

その後、岬館にて懇親会を行い更に友好を深めました。来年の主催は小千谷高校同窓会だそうです。久しぶりに乗った特急列車と共に興味深い小旅行のご縁を頂けたことに感謝します。

敦井副会長とご出席の方々

平成 25 年度青山同窓会収支決算書

（自　平成 25 年 4 月 1 日　至　平成 26 年 3 月 31 日）

（単位：円）

科　目	予算額	決算額	差　異	備　考
前期繰越金	4,079,710	4,079,710	0	前年度繰越金
Ⅰ収入の部				
入会金収入	724,800	712,800	12,000	1 年生　1 人　800 円× 363 人 2・3 年生　1 人　600 円× 704 人
会費収入	6,500,000	7,010,200	△ 510,200	同窓会年会費 1 口 1,000 円
総会収入	3,900,000	2,759,880	1,140,120	
新年会収入	660,000	693,000	△ 33,000	
雑収入	1,000	176,644	△ 175,644	校歌・応援歌 CD、校章バッチ代金、百二十周年記念式典 DVD、預金利子
当期収入合計	11,785,800	11,352,524	433,276	
合計	15,865,510	15,432,234	433,276	
Ⅱ支出の部				
総会費	3,900,000	2,876,370	1,023,630	
新年会費	660,000	608,500	51,500	
人件費	1,140,000	1,130,700	9,300	職員 1 名、給料、交通費
通信費	1,500,000	1,717,037	△ 217,037	会報、総会案内、各期幹事会案内発送料金、振替料負担金、電話料金
印刷費	500,000	423,805	76,195	封筒、振替用紙、総会案内状、はがき印刷代
慶弔費	150,000	94,457	55,543	離任職員餞別、弔電
広報費	1,200,000	1,447,137	△ 247,137	年 2 回発行会報印刷代、学校案内掲載広告代、ホームページ契約料
会議費	600,000	581,067	18,933	
講演会費	250,000	188,177	61,823	学術文化講演会
旅費	600,000	514,620	85,380	
卒業生記念品費	300,000	262,080	37,920	
補助費	1,400,000	1,211,715	188,285	東京同窓会補助 500,000、東北青山同窓会 100,000、通信制部会補助 50,000、クラブ OB 会補助、青陵祭補助、学校行事補助
母校支援費	20,000	53,900	△ 33,900	卒業生連絡ハガキ、情報保護シール、写真パネル
退職積立預金	100,000	100,000	0	
諸費	1,700,000	1,562,177	137,823	光熱水費、消耗品費、「青山百二十年史」代金、百二十周年記念式典 DVD 代金
予備費	1,845,510	0	1,845,510	
当期支出合計	15,865,510	12,771,742	3,093,768	
当期収支差額	△ 4,079,710	△ 1,419,218	△ 2,660,492	
次期繰越金	0	2,660,492	△ 2,660,492	
合計	15,865,510	15,432,234	433,276	

平成 26 年 4 月 7 日　上記の通り相違ないことを確認します。　監事 江口良明　監事 渡辺四夫

平成 26 年度青山同窓会会務計画

平成 26 年　7 月 11 日（金）　総会
平成 26 年 12 月　6 日（土）　青山学術文化講演会
平成 27 年　2 月 20 日（金）　新年会

平成 26 年度青山同窓会収支予算書

（自　平成 26 年 4 月 1 日　至　平成 27 年 3 月 31 日）

（単位：円）

科　目	本年度予算額	前年度予算額	増　減	備　考
Ⅰ収入の部				
繰越金	2,660,492	4,079,710	△ 1,419,218	前年度繰越金
入会金収入	723,000	724,800	△ 1,800	1 年生　1 人　800 円× 363 人 2・3 年生　1 人　600 円× 721 人
会費収入	6,500,000	6,500,000	0	同窓会年会費　1 口 1,000 円
総会収入	3,900,000	3,900,000	0	1 人　6,000 円× 650 人
新年会収入	660,000	660,000	0	1 人　6,000 円× 110 人
雑収入	1,000	1,000	0	預金利子
収入合計	11,784,000	11,785,800	△ 1,800	
合計	14,444,492	15,865,510	△ 1,421,018	
Ⅱ支出の部				
総会費	3,900,000	3,900,000	0	
新年会費	660,000	660,000	0	
人件費	1,140,000	1,140,000	0	職員 1 人給料、交通費
通信費	1,500,000	1,500,000	0	会報発送、総会、役員会案内郵便料金振替料負担金、電話料金
印刷費	500,000	500,000	0	封筒、振替用紙、案内状印刷代、データメンテナンス代
慶弔費	100,000	150,000	△ 50,000	会員慶弔電報、香華料、離任職員餞別
広報費	1,200,000	1,200,000	0	年 2 回発行会報印刷代、総会案内新聞広告代、学校案内掲載広告代
会議費	600,000	600,000	0	
講演会費	200,000	250,000	△ 50,000	学術文化講演会
旅費	550,000	600,000	△ 50,000	東京、関西、東北同窓会総会出席旅費
卒業生記念品費	300,000	300,000	0	
補助費	1,300,000	1,400,000	△ 100,000	東京同窓会補助 500,000、関西同窓会補助 100,000、東北同窓会補助 100,000、通信制部会 50,000、クラブ OB 会補助、青陵祭補助、学校行事補助
母校支援費	20,000	20,000	0	卒業生連絡はがき代
退職積立預金	100,000	100,000	0	
諸費	250,000	1,700,000	△ 1,450,000	光熱水費、消耗品費
予備費	2,124,492	3,885,822	△ 1,761,330	
合計	14,444,492	17,905,822	△ 3,461,330	

青山同窓会総会のお知らせ　―予定―

日時：平成 27 年 7 月 10 日(金)
　　午後６時～　　総　会
　　午後６時 30 分～ 懇親会
会場：ＡＮＡクラウンプラザホテル新潟

関西青山同窓会総会のお知らせ

日　時　平成２７年２月２８日（土）
　　午後６時　受付開始予定（若干変更になる可能性もあります）
会　場　ウェスティンホテル大阪
問い合せ先　松本登記測量事務所
　　電話 072-286-0012　FAX 072-286-0021
　　E-mail kansai_aoyama@yahoo.co.jp

訃 報

青山同窓会監事の渡邊國夫さん(72 回)が、昨年 12 月７日に急逝されました。ここに御生前の御厚情に感謝申しあげますとともに、謹んで御冥福をお祈り申しあげます。

★青山同窓会の書籍等のご案内★

創立百二十周年記念事業の一環として作成しました書籍等を、ご希望の同窓の皆様にお分けいたしております。また、校歌・応援歌を収めた CD もございます。
ご希望の方は同窓会事務局までご連絡ください。

『青山百二十年史』書籍(CD-ROM付き) 10,000円(送料･振込手数料別途)
創立百二十周年記念式典DVD　2,500円(送料･振込手数料別途)
『青山同窓会　百二十周年名簿』　5,000円(送料･振込手数料込み)
校歌･応援歌CD　1,000円(送料･振込手数料別途)

ホームページ部会より

ホームページ部会
小松原　雅之（85回）'77卒

青山同窓会報100号発刊おめでとうございます。新潟高校の卒業生として、同窓会活動のほんのわずかでも一端を担わせていただけることに感謝しております。青山同窓会のホームページが平成24年10月にリニューアルするのを機会に私が担当することになりました。リニューアルしてから今年までの2年間の訪問者数は、約1万人で1日平均の訪問者数は約13名強なので、まだまだ多くの方にご覧頂けているとは言えません。当ホームページは、昭和40年発行の青山同窓会報第1号から現在に至るまでのバックナンバーを掲載しており、昭和から平成、現在に至るまでの同窓会の変遷が分かる内容になっております。個人情報保護等の関係から、豊富な画像の掲載が難しい状況ではありますが、毎年行われております新年会・総会の様子が網羅されており、今までなかなか同窓会の行事に足が向かなかった人にとっての懐かしい人との再会や先輩後輩との新たな出会いのきっかけとして、ちょっとでも訪問していただけると幸いです。ホームページのコンテンツの内容が、新年会・総会・学術文化講演会等のご案内とご報告が中心となっており、まだまだ双方向の情報のやり取りができていない状況です。今後は、情報のネットワークを広げ、様々な同窓生の活動やタイムリーな情報を紹介し、さらに活性化・充実化させていきたいと思っておりますので、どんどん訪問していただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

青山同窓会ホームページ　トップ画面

ホームページ
へアクセス

同窓生訪問

「池主　憲夫さん（68回）'60卒を訪ねて」

会報編集委員　中野　久（71回）'63卒
小山　佳子（88回）'80卒
坂井奈津子（96回）'88卒

記念すべき青山同窓会報100号は、会報編集委員として長年ご尽力して下さっている池主憲夫さん（68回）にお話を伺いました。

池主さんは79号より10年以上も青山同窓会報のイラストを描いて下さっていますが、本業は歯科医でいらっしゃって、絵は趣味で描かれているものです。と言っても、プロ顔負けの素敵なイラストで毎号紙面を明るく飾ってくださっています。

青山同窓会報は毎回の発行につき、全員で集まる編集会議は1回のみ。あとは締め切りまでに各自担当した記事を間に合わせる個人活動です。集まった原稿がゲラとして出来上がると、いよいよ池主さんの出番です。

その時点で初めて、イラストを入れる個所と必要な数の依頼が来ます。そして、2～3日で仕上げて下さいと。

「苦労するのは、あくまでもイラストは本文に添えられるもので、絵だけを見てもらうものではない事です。ですから、全体のバランスを考えて描くようにしています。文章にとらわれ過ぎて説明的なイラストになってもつまらないし、懐かしい風景などを描いていると、ついつい見てもらいたい気持ちが強くなって描きすぎてしまう。そういうところが悩みですね。」

短期間で仕上げられるのか心配になったのですが、絵を描き始めたら数時間で仕上げてしまうそうです。むしろ、テーマを決めるまでに時間がかかるとおっしゃっていました。

池主さんは他に歯科医師会関連団体の機関誌の挿絵も20年近く、月1回の発行ペースで続けていらっしゃいます。最近は昼間に時間を持てるようになりましたが、それまではもっぱら仕事が終わってから、夜遅くまで描いたそうです。

常に持ち歩いていらっしゃるスケッチブックには、水彩の色彩豊かな風景画などが描かれていました。イラストの参考になればと、描きためていらっしゃるのです。常に会報の事を考えて下さっているのだなぁ、と改めてご苦労を感じましたが、「イラスト担当の特権は、誰よりも早く会報が読める事だよ。」と、むしろ楽しんで引き受けて下さっています。

子どもの頃はいつも絵を描いている少年でした。小中学生時代は「少年倶楽部」「少年画報」等、当時人気の雑誌を見る事が大好きでした。挿絵の画家は憧れの的だったそうです。

会報編集委員になられたきっかけは、当時の編集長の石田瑞穂さん（67回）が、色々な部活のOBにバランス良く声掛けして委員を集めたからです。美術部OBとしての参加かと思いきや「水泳部OBとして加わったはずですよ。」と、意外なお答えが。高校時代、実は水泳部と美術部の二つに所属していたのです。どちらかと言うと水泳部の活動に熱心だったとか。

池主さんと同時期に編集委員になられた野球部OBの中野久さん（71回）が、当初の編集会議の様子をお話し下さいました。

「編集会議に記事になりそうな情報を持ち寄る、それが編集委員の役割でしたね。最近は、事務局に情報も集まるようになっているし、委員の役割が変わってきているように感じます。」「池主先輩の絵が上手いという事は我々の世代では有名な話で、68回卒の有志で作品展も開いておられるし、ある日の編

集会議で、次号からイラストを担当して頂こうと自然な話の流れで決まりましたよ。」「編集会議のあとは必ず二次会に繰り出して、情報交換のつもりがいつの間にか脱線して、先輩方と色々な話をしたのが楽しくてね。」

池主さんが目を輝かして絵の話をされていて、好きな事をずっと続けるというのは素晴らしいなと感じました。今後は、会報を読んで下さる皆さんが在学していた時代を懐かしく思うようなテーマを描いてみたいとおっしゃられました。例えば、昔の白山の路面電車の駅や学校町通を走っていたバス、校区駅伝、青陵祭等の学校行事など。同窓生の方で懐かしい写真をお持ちの方がおられましたら、イラストとして描きたいので写真をお借りしたいそうです。お持ちの方は事務局へご連絡ください。お待ちしております。

池主さんや中野さんが編集委員になって以降、編集長も石田さんから戸松秀雄さん（67回）、そして現在の石井智裕さん（79回）と代わり、編集委員も68回卒から113回卒まで年齢層の幅も広く活動しています。時には、会長や幹事長を巻き込んでの取材など、多くの方々のご協力で会報が出来上がっています。そして何よりも、この会報を読んで下さる会員の皆様がいらっしゃるからこそ、次もいい会報を作ろう！という大きな励みになっています。

これからも池主さんの素敵なイラストが会報を飾ってくれるのを楽しみにしています。

（坂井記　写真小山）

会報編集委員
上段左から　坂井　小山
下段左から　池主　中野

絵本画家・イラストレーター 黒井　健さん（74回）'66卒 を訪ねて

会報編集委員　樋口　真佑子（113回）'05卒

黒井さんは画業40周年を迎え、昨年9月12日から11月3日まで新潟県立近代美術館で「黒井健　絵本原画の世界展」が開催されました。また、２０１０年から新潟中央図書館こどもとしょかん名誉館長を務められています。昨年10月川崎市にあるオフィスに訪問し、さまざまなお話をうかがいました。

黒井さんは中学時代は放送技術部に所属され、電気技師になるため工業高校志望でしたが、担任の先生からの勧めで新潟高校に進学されました。高校時代はサッカー部でポジションはディフェンス。サッカーに明け暮れる日々を過ごされました。もともと体が弱かったのが、高校に入学するころに健康になって「運動部に入ろう」と思いサッカー部を選んだそうです。日々の練習は厳しく、入部当初40人いた部員は夏までに半分以上が辞めてしまった中で、最後まで続けられたといいます。試合で勝ち負けがあることが面白く、勉強面で感じた劣等感をエネルギーに変えて頑張ったそうです。

特に心に残っている思い出は、1年生の秋にレギュラーになったこと。2年生の先輩とポジションを争ってつかみ取ったレギュラーの座でしたが、悔しい思いをしているはずの先輩が、グラウンドの外から動きを教えてくれたり、用具もくれました。その優しさに感激したそうです。

小さいときは家でよく模型などの工作をしていたので美術が得意になり、高校時代は将来、建築デザインをやりたいと思っていたそうです。しかし大学受験に失敗し、浪人中に美術系に転向、新潟で絵の教室に通いながら勉強し、県内外の大学を受験した末に新潟大学の教育学部中等美術科を発熱しながらも受験、合格されました。

大学時代はイラストレーター、デザイナーといった言葉が流行し始めたときでしたが、芸大出身の先生たちに出会えたことが、「自分も絵を描いて暮らしたい」と強く思うきっかけになったといいます。特に親交があったのは当時30代後半の非常勤講師。黒井さんをかわいがってくれ、部屋でお酒を飲んだりして先生が楽しげに暮らしている姿が心に残っており、それまでは自分なりに生真面目に生きてきたのがどこか解放された気がして、『こういう生き方もあるんだな』と感じたそうです。後年、「黒井君はちゃんと自分の世界をつくったね」と先生から言われすごくうれしかっ

たそうです。

大学卒業後は「東京に行かなきゃ」と強く思い、上京して大学時代に描いた絵を持ってデザイン事務所を回りましたが、なかなか就職先が決まらず、アルバイト生活を送りながら暗たんたる思いで日々を過ごしていたそうです。その後出版社に勤務したこともありましたが、やはり絵を描くことが本当に好きで、1日中絵を描いていたいという自分の思いを無視できず、2年で退社。しかし、出版社で絵本の作り方を学んだことは、挿絵を手がける際にも生かされているそうです。

その後ファッションイラストレーションに携わったりしつつ徐々に絵本を描く道に進んでいくことになりましたが、あるとき自分が挿絵を描いた絵本が本屋の店頭に並んでいないことに気づき、「自分はこの道には向いていないんじゃないか」と感じていたフリーのイラストレーターになって12年経った時に、自分の転機となる作品に出合います。「物語に絵をつけるってことは、こんなに奥が深くてわくわくするものなのか」と絵本の面白さに改めて気づかされた、名作「ごんぎつね」です。「大人も読める絵本」という副題のついたこの本については、子どもたちが読んだときのことを考えず、自分の感じたままを描こうと思い、「これで誰も読んでもらえないようなら絵本をやめる」と強い決意を胸に取り組まれたそうです。出版社の担当からは、「描けるのか」と挑発的な言葉も言われ、追い込まれた中で取り組まれました。その結果、これまで描いた絵と比べてとても変わった作品ができ、全く自信が持てなかったそうですが、この「ごんぎつね」は、2年後に手がけた「手ぶくろを買いに」と並んで、黒井さんが挿絵を描いた絵本の代表作となりました。

その後も画風を変えながら絵本の挿絵を手がけられていますが、「誤解を恐れずに言えば、自分を模倣したくない。技術ばかりが手に残って、吹き上がるようなエネルギーが出てこないと良い作品が描けない」と、積極的に変化を求める姿勢が、黒井さんのすばらしさだと感じました。

「工業高校に行かず新潟高校に進学したこと、受験に失敗したこと、新潟大学でかけがえのない恩師と出会えたこと、両親が上京を止めなかったこと、出版社に就職したこと、すべてはこの道に入るために導かれたことだと思う」との言葉が強く印象に残っています。

故郷・新潟への思いについては、「故郷というのは母親に手を引かれて見ていた風景でもあり、自分の根底に流れているもの。それが自分の基礎となっている」と。それが黒井さんの絵にも表れているのですね。

新潟高校の生徒の皆さんへは、「失敗すると、そのときは絶望しても、ちゃんと行くべき道が待っている。今できることを一生懸命にやることが大切」というメッセージをいただきました。

お話をうかがって、黒井さんの描く絵のように優しく穏やかな雰囲気に私もすっぽり包まれてしまうような感覚でした。一方で、ご自身の絵に対する姿勢には、マイナスの状況をエネルギーに変えて、常に今より良い作品を描いていこうとする力強さを感じました。その対照的な面が、お人柄と絵の魅力につながっているのだと実感しました。本当にありがとうございました。

同期会報告

64回3F喜寿の会

高木　睦弘（64回）'56卒

標記の会は平成26年11月9日、東京有楽町で行なわれた。集まったのは東京勢11名、新潟勢3名で、以下姓名を列記したい。

写真に向って左より前列牛木容三郎・斎藤博夫・近信雄・斎藤邦男・高木睦弘・高見浩・藤田昇三・後列真壁日史郎・桝潟晴夫・田伏正樹・坂井敬・高橋正幸・江部陽一・宮田量司。

3Fのクラス会は、平成14年を皮切りに計5回行なわれた。新潟で2回、東京で3回である。3～5回目は各2年おきに行われている。

今回特筆すべきことが一つある。それは、清水郁子さんの消息が判明したことである。彼女は長い間消息不明であったのだが、このたび療養のため施設に入っておられることが分ったのである。新潟高校卒にしては珍しい演劇人であった彼女は、菊田一夫氏の劇団に所属され、山田五十鈴さんの公演などに参加されていた。NHKの朝ドラにも出演されたことがあるが、私の手許に彼女の貴重な映像がビデオで残っている。それは五社英雄監督、仲代達矢、岩下志麻主演の「鬼龍院花子の生涯」である。彼女はその中で夏目雅子の母親役として冒頭に登場するのだ。

昭和30年の青陵祭で我々は連合創造で戦後史のカリカチュアをやり、応援ではパイレーツに扮して両部門で一位になった。そのもとは演劇部の彼女と北村市郎君の存在であり、ジョリー・チャップスのトランペット三国六朗とクラリネット大塩節雄のジャズ感覚であった。昭和29年に旧制中学以来の木造校舎が全焼した時、我々は二年生になる所だった。

校舎復興ということで様々な行事が行われたが、校区一周駅伝や学校登山（驚くなかれガイドもなしで槍ヶ岳に登ったのだ）、青陵祭も桟敷などは机・椅子を使った手造りで炎天下に行なうなど、今考えるとあの頃は元気一杯だったと思う。

清水郁子さんについては語るべきことが、まだ多くあるが、紙数が尽きたのでここまで。

青山70回同期会報告

伊藤　善允（70回）'62卒

平成26年10月25日、ご来賓に松浪清先生・宮地正樹先生をお迎えして、ホテルイタリア軒で開催されました。2年ぶりの再会、参加者は67人でした。

司会は前回に引き続いてC組の斎藤忠正さん。物故者への黙祷に続き、乾杯で会は始まりました。今回乾杯の音頭をとったのは、遠く秋田市からかけつけてくれたA組の横山治夫さんです。続いて、両先生からご挨拶をいただく。松浪先生は、最近は忘れっぽくなったのでメモを用意してきたと言いながらも、メモも見ないで、また用意されたマイクも使わずに話されました。宮地先生は、名指しでよびかけながら思い出話を語ってくれました。高校生の頃に立ち返ったひとときでした。

今回のメインイベントは、E組伊藤正敏さんのハーモニカ演奏。昔懐かしい「ダニーボーイ」「ああ上野駅」を演奏、アンコールの拍手にこたえて最近ヒットした新沼謙治の「ふるさとは今もかわらず」を演奏しました。

伊藤さんは、42歳の時に脊椎損傷の大けがをしたが、その後リハビリに専念して見事復帰を果たし、現在は新潟県ハーモニカ協議会副会長をしておられるとのこと。けがをして以降初めて出席、30年ぶりで元気な姿を見せ、勇気と感動を与えてくれました。

壇上で近況報告、貴重な体験談などが続く一方で、話の輪があちこちに。笑いと喧騒の中で、瞬く間に終宴の時間となりました。かつての応援団長金子健三さんの指揮で恒例の「ますらお」を歌い、松浪・宮地両先生のご健康を祈念してエールを送り、生徒会長田中信さんの閉会の挨拶で一次会は幕を閉じました。

ほぼ全員がいつもの二次会場ジョイアミーアへ。席を変えながら続く話は跡切れることなく続き、深更に及びやむなく閉会を宣言。二年後の再会を期して散会しました。

途中で我が期の幹事長であった福田実君が逝去されると言う悲しい出来事がありました。その折に東大ゴルフ部であった彼を偲び福田メモリアルとして福田杯を創設。彼から「早く上手になれよ」との暗黙の叱責として最下位の者は1年間自宅に飾って置くと言う臥薪嘗胆を経験してもらう慣例を作りました。

かく言う私も何度か受けておりますが副賞として瀧澤先生から「ボールを沢山無くしただろう」との温情で新品のゴルフボールを一ダース頂戴することが出来るのです。

最近は同期に篠田昭君がいるので新潟市内のゴルフ場が主戦場となっています。まあ一番上手いのは何と図々しく5回も優勝した堀一君でありましょう。

◇

さて今年は我々が新潟高校に入学して満50年の記念すべき年であります。新潟国体から始まって新潟地震、東京オリンピックと忘れられない思い出の年でありました。

今から33年前、卒業20年を記念して東京と新潟の中間の水上で第1回の同期会をゴルフとセットで開催したのが始まりです。以降無かった年もありましたが、最近20年は淡々と夏のゴルフ・納涼会と年末の忘年会を開催し30名前後が集まってワイワイやっております。さすがに先生方もご高齢になりましたが瀧澤強一先生はほとんど毎回、星智信先生、渡辺卓爾先生はたまにご出席を頂いております。

今年は8月16日、堀一幹事長のもとゴルフは新津カントリークラブで15名の参加。瀧澤杯は駒村利晴君、福田杯は藤縄利勝君でした。

納涼会は同日クオリス（105回田中社長）にて43名の出席で開催いたしました。満65歳という歳でしょうか？　お盆にかかったせいでしょうか？　普段より多くの参加者・初参加者が来てくれ幹事冥利につきる会となりました。物故者が38名になり彼らの冥福を祈ると共に、再会を誓い合い、佐藤静一君指導のもと丈夫の斉唱でお開きとなりました。

青山七五会ゴルフ会の歴史と高校入学50周年懇親会

富山　修一（75回）'67卒

青山七五会ゴルフ会は平成9年に入学時の担任でありました瀧澤強一先生から優勝カップの寄贈を受け始まったのが由来です。以来今年で18回を迎えました。

79回同期にお知らせ

白井　幸雄（79回学年幹事）'71卒

昨年の文藝春秋9月号の『同級生交歓』のコーナーに、医療、マスコミ、声優、芸術、実業の各界で活躍している79回の同期生5人が掲載されました。母校を卒業して43年余り、過去を振り返ることが多い年齢となりましたが、こうした記事を見るにつけ、励まされ、勇気を貰い、まだまだ頑張るぞ、という気持になります。それでは吉田至夫君の軽妙な語り口による文をご覧ください。

―――――――

以下2014年9月号文藝春秋記事より

「ふなびとは　はやこぎいでよ
ふきあれし　よひのなごりの
なほたか久止母」校庭にある大先輩、會津八一の歌碑のごとく、我々は昭和四十六年、新潟県立新潟高等学校を卒業した。

猪股は在校中から我々の期の先頭を走り続けてきた。京都大学医学部博士課程を修了。その後、熊本大学で、生後十三日目の新生児生体肝移植にも成功。今や小児・移植外科の分野でわが国をリードしている。

後藤は作品に合唱組曲「みまかれる美しきひとに」他。また、全音ピアノピース等で数多くの編曲を手掛けている。母校の創立百二十周年式典では旧制・新制それぞれの校歌を一つに編曲。出席者の感動を呼んだ。

母校は、今は男女ほぼ同数だが、当時女子は男子の十分の一。よこざわは「ドラえもん」の初代ドラミや「にこにこぷん」のぴっころ、「天空の城ラピュタ」のシータで声優として地位を確立。母校で幾度か講演を行い、後輩の女子に勇気を与えた。そして今でも我々のマドンナである。

横山は「桜の花の咲く頃に」などヒューマンドキュメンタリーの旗手。フジテレビではゼネラル・プロデューサーとして「白線流し」や「北の国から」などの名作ドラマも手がけた。昨年から現職になったが、若い学生といると本当に楽しい、という。

吉田は日本経済新聞の記者を経て、地元に帰り家業の農機具販売に。最近はおコメの海外輸出などを手がけ、その縁で新潟日本香港協会の会長に昨年就任した。

それにしても最近の後輩たちの躍進は目覚ましい。新潟の県高から日本の県高に、の勢いである。我々も負けていられない。卒業から四十三年。こぐ手を休めようとはしない。

（吉田）

東京・港区　ホテルオークラ東京「山里」にて（撮影　㈱文藝春秋・三宅史朗）

（後列右から）
熊本大学医学部附属病院小児外科・移植外科教授　猪股裕紀洋
上越教育大学教授・作曲家　後藤丹
新潟クボタ代表取締役社長　吉田至夫
（前列右から）
近畿大学教授・プロデューサー　横山隆晴
声優・ゆーりんプロ代表取締役　よこざわけい子（難波啓子）
（写真提供　㈱文藝春秋）

青山81回生還暦の祝いを開催

坂田　光子（81回）'73卒

平成26年11月8日に、青山81回生（昭和48年卒）の還暦の祝いを開催しました。私たちの代は、砂田徹也学年幹事のご尽力のもと、卒業20周年以来、5年に1回の同窓会を開催しています。一昨年、卒業40周年の席上で還暦の会をしようという話が出、今年の初めくらいから、月1回のペースで準備会（最初の30分以降は飲み会？）を開催して来ました。その綿密な打ち合わせとチームワークで、卒業生79名と先生お3人様で、総勢82名が、行形亭に集まりました。学年幹事の砂田さんが開催に至る経緯を説明し、来賓として2組の野坂先生、3組の目黒先生、7組の三浦先生からご挨拶を、5組の広澤先生からはお祝いのメッセージをいただきましたが、それぞれ、蘊蓄のあるお話で、往時を振り返り、自分たちが「あれから40年」以上を経て還暦を迎え、祝うことができたのも、多くの方々のお支えがあってのことと、しみじみ感じ入りました。

最年長ということで4月2日誕生の伊藤均氏から乾杯の音頭をとっていただき、その後、古町芸妓の皆様から祝いの舞、更に各クラスの席で一緒に写真撮影をさせていただくなど、楽しいひとときを過ごしました。同級会ならでは、女子と呼ばれて、こそばゆいアラカンでした。

89回同期会報告

大野　宏（89回）'81卒

2014年8月2日（土）に89回同期会を新潟グランドホテルで開催しました。2年前の新潟高校創立120周年の日に50歳の節目の年ということで、初めての大々的な同期会を開催しましたが、またやってほしいとの声が多く、今回が2回目の開催となりました。

生徒会長だった近藤恒史君の乾杯の音頭で始まり、目黒俊雄先生、野坂泰司先生、三浦隆先生からお言葉をいただきました。また、余興として小生の娘が在学中ということもあり、今年の青陵祭の映像や今回参加できなかった仲間の最近の写真などを、プロジェクターで上映しました。これらの写真は、Facebookの新潟高校89回同期グループにアップされているもので、同期の仲間達の情報交換や新潟や東京でのプチ同期会の開催に、Facebookを活用しています。

今回も同期会のグループ写真や全体写真は、実家の写真館をついだ栗間聡君から撮ってもらいました。さすがプロは違うと、毎回感心させられます。今回の写真もさっそくFacebookの同期グループにアップされました。同期で興味のある方は、Facebookの同期グループに参加している友人を探してみてください。

楽しい時間はあっという間に過ぎ去り、最後にボート部OB会幹事長の神林正浩君のリードで「ますらお」を歌い、ホテルすぐ隣に確保した二次会会場へと足を運びました。

前回は32年ぶりに再会した面々が多く、おしゃべりに忙し

くて料理が沢山残りましたが、今回は2回目ということもあり、会話、料理、お酒とバランスよく楽しむことができました。また、同じクラスや部活だった仲間との会話はもちろんですが、高校時代ほとんど話したことの無かった同期生との会話も楽しく、皆、充実した人生を送っていることが窺えました。

また数年後に開催しますので、皆さん、お集りください。毎年7月に開催される総会への出席もよろしくお願いします。

憧れの通信制授業

福田　知恵子（通35回）'93卒

平成26年6月28日（土）、東映ホテルで通信制恩師を囲む会が開催された。個人的には同期会に一度参加し20余年、初めての同窓会である。席はステージの真ん前、長谷川義明同窓会会長、宮地正樹元校長、35回生6名のテーブルだった。同期の面々、入学から一緒の顔見知りは2人。変わらぬ姿、走馬灯の如く、様々な事が浮かんで来た。

そもそも、私の勘違いから始まった高校生活。学びたい一心、市報で通信制生徒募集の記事が、目に飛び込んで来た。家人に許可をもらい入学する事が出来た。しかし、すぐに間違いに気づかされる。本校スクーリングと地区の学習会が同じと思っていたので、話が違うと叱られた。当時、長岡市在住の為、車で送迎してもらったり、新幹線とバスを利用したり、随分迷惑を掛けた。運良く暮れに転勤で新潟へ戻れ、自転車通学可能となった。勉強する事が楽しくて、仕方なかった。毎回提出するレポートには、解答の他に質問や何やら事細かに書く私に、文句も言わず全てに答えて下さった先生方。担任でない恩師より、『新潟へ戻れて良かったですね。』とわざわざお手紙を頂いた。ただ、ただ感謝。

ひいき目かも知れないが、我が35回生は特別だった。15歳から、半世紀以上先輩まで、老若男女、個性も多種多様、幅広い集まり。本当に仲が良かった。何年目か忘れたが、全日制から編入して来た男子生徒が、ぽつりと言った。『通信制の授業が羨しかった、みんな溌剌として楽しそうだった。』と…

憧れの通信制授業を受け、彼は同期卒業、大学へ進学した。私も再び学びたい、と憧れがうずうずして来たようです。

次回、そんなお話、一緒にしませんか！

OB会報告

青山体友会の集い

中川　弘（58回）'50卒

深まりつつある秋の10月の下旬、恒例の青山体友会は開かれた。復活28回と現在母校には体操部はないのに、よく続いたものと皆感心している。新潟の体操は新潟中学より始まった素晴らしい歴史のもとに吾々は伝統と栄誉に誇りをもち、体友会をひらいている。中野文郎(59回)が編集に加わった新潟の体操80年史をもってきて、昔の話、ああだ、こうだ、色々と話題に困らない。体操もどんどん進歩し、サーカスに近い傾向に国際体操連盟会長は、警告を発し、点数のあり方が変わってくるらしい。第1回オリンピックより体操はあり、どんどん進歩している。新潟県はオリンピック選手を出し素晴らしい県で全国にも名をとどめている。吾々も年をとったが、年に一度の体友会には皆よろこび勇いで出席する。先輩はなくなり高齢者になったが、会えば昔の一本通った話に、はずむ。若い時とはいえ、よくも鉄棒で倒立して廻ったり前方転回、後方宙返り、やったものと今更ながらおどろいている。鉄棒、平行棒、鞍馬、跳馬、吊環、床運動と。アルコールが入り、恒例の渋谷さん（53回）の手品、青山さん（55回）のミルクブラザース、味方さん（67回）のハーモニカ、会場の支配人は「すばらしい芸人揃えで、よい集りですね」と羨しがっている。いずれの日にか、体操部の復活を夢みて、青山体友会は応援を惜しまない、体操を愛し体操を育てた、幾多の先輩を生んだ体操部、栄光ある体操部、体操をするための毎日がある若き血は体の中を今日も流れて生きている。当日の出席者は板谷啓司（51回）土田卯八郎（51回）渋谷興司（53回）青山昭郎（55回）青山茂郎（55回）安倍豊（58回）中川弘（58回）中野文郎（59回）川上忠男（59回）味方繁夫（67回）出口卓哉（94回）である。来年またお会いしましょうと閉会した。

関川合宿激励のBBQと総会

青山水友会事務局
中戸　雅博（83回）'75卒

毎年恒例の水泳部関川合宿激励BBQが平成26年8月3日、関川村雲母温泉「寿荘」で行われた。この日の午前10時からは、これも恒例になっている現役選手とOB選手による対抗リレー（25m×6）があった。OB選手団は、江口良助副会長さん（61回）監督のもと、小熊勇司さん（58回）を筆頭に、山際和明さん（83回）、長谷川富明さん（84回）松木保さん（84回）と中戸の6名。

女子部員や引退した3年生部員に平泳ぎだけで泳ぐことや、50mのハンデを強要してのレースだったが、いずれも惜敗した。

午後12時半からは、寿荘の裏山でのBBQ。部員29名と水友会会長で関川村村長であられる平田大六さん（60回）、桝山純副会長さん（62回）と前述した7名の計9名、総勢38名の大BBQ大会になった。手作りソーセージ店「ライン」を経営している高橋好陽さん（77回）からの格別なソーセージが提供され、今年も現役部員から大好評を得た。

翌週の8月9日の午後2時からは、新潟高校で青山水友総会と現役との再レースが行われた。この日参加した永井梓さん（62回）から選手当時の「古式バタフライ」（バタフライの手かきと平泳ぎの足）が披露された。驚いたのは、永井さんの肩の柔らかさである。当時からも「無関節」と称された肩は、現役のバタフライ選手のそれよりも格段に柔らく、まさにぐるぐると回る、ゼンマイ仕掛けの鉄棒のおもちゃのような動きであった。

青山柔道部OB会平成26年度報告

副幹事長　儀同　政宏（90回）'82卒

青山水友会では、毎年「会報」を発行し、300名近い会員に送付している。しかしながら、BBQや総会の参加者が固定化しており、何とか若返りを図るのが課題である。少しでも若いOBの参加を切望し、BBQと総会の報告とさせていただきたい。

一　現役激励会

3年生の公式戦が全て終了した7月12日（土）、3年生のこれまでの大会の慰労と次の目標に向かっての激励、1、2年生へは新たな挑戦への激励の会を昨年に引き続き、関新の三宝飯店で行った。道場での厳しい顔とは異なり、楽しい雰囲気でごちそうに向かった。

現役選手の今年は6月の県高校総体で見事難関を突破し、久方ぶりに北信越高校柔道大会に団体戦・個人戦とも出場し活躍してくれた。また、特筆すべきは1月の県大会を制し、3月、柔道選手あこがれの日本武道館での全国高校柔道選手権大会に出場した加藤稜大君の活躍である。

OB会として、全国の先輩方にこの快挙をお知らせするとともに遠征激励費のお願いをした。多くの先輩方々からのご送金で選手を激励することができ、心から感謝いたしております。そして日本武道館へは東京OB会・新潟OB会の先輩方の力強い応援の中、加藤君は正々堂々とした青山柔道で頑張ってくれた。

二　OB会稽古会

11月15日（土）

総会に先立ちOB会稽古会は、1時半から母校道場で始まった。今回は基本技術の練習をOBのマンツーマン指導を中心に行われた。先輩方も昔を思い出しながら手取り足取り青山柔道を伝えていた。稽古の後に新キャプテンに激励費を渡し終了した。

三　青山柔道部OB会総会

11月15日（土）

総会は6時に、今年は学校町の割烹「佐和村」で開催された。

立川克雄会長（72回）、続いて東京会長佐藤信秋参議院議員（74回）のあいさつ。26年度事業・会計報告、竹石監督の大会成績報告の後、佐藤成昭先輩（74回）の音頭で声高らかに乾杯し懇親会が始まった。

佐藤信秋議員のあいさつの中では柔道国会議員連盟のまとめ役として、全日本柔道連盟の宗岡正二会長、山下泰裕副会長への協力等全日本柔道連盟の発展や文科省への働きかけに尽力していることなど興味ある話を伺った。佐藤議員には時期も時期大変ご多忙の中参加いただき感謝する次第である。

そして、例年のごとく年齢差など全く感じることなく楽しく飲み且つ語った。鮟鱇のフルコースも完食であった。

中締めは相澤裕吉先輩（78回）の万歳、そして「青山の斉唱」で来年の再会を誓った。

青山バドミントンクラブ

小杉　信広（92回）'84卒

秋の涼しさを感じるようになった10月4日、毎年恒例となった青山バドミントンクラブのバーベキュー大会を関屋浜にある海浜公園で開催し、バドミントン部OB、顧問の先生、現役高校生が交流を深めました。

当日は秋の空に相応しく(?)曇り空で時折雨が降っていました。準備の最中何度も雨に降られ、どうなることかと思いましたが、ここで威力を発揮したのがスマートフォンの天気予報でした。画面を見ながら、「この雲が通り過ぎれば大丈夫！」とモチベーションを上げ準備しました。予報通り最後の雨雲が通り過ぎた後は雨に降られることもなく、練習を終えた現役高校生が到着して間もなくバーベキューを始めることができました。

嬉しいことに前年同様、今回も多くの1年生が入部してくれ

ました。このため、食べ盛りの高校生に食材は足りるのかと不安はありましたが、前年の反省を踏まえたこともあり、不足にはならなかったのではないかと思っています（現役生は前年同様のピザを期待していたかもしれませんが・・・）。

食事が終わった後は参加者全員が円陣を組んでのミーティングが行われました。前年まではOBが一人一人現役生への熱いメッセージを伝えた後、現役生男女主将から決意表明が行われていましたが、今年は現役生も一人一人話をしてもらいました。大勢の前でのスピーチは若い彼等にとってとても緊張を強いられたのではないかと思いますが、OB（大先輩）からの激励に刺激を受けたのか、全員の生徒が目標をたのもしく語ってくれてとても嬉しく感じました。少しでも大先輩に近づき、そして追い越してほしいものです。

高校時代に一心不乱にシャトルを追い、同じ目標を目指した先輩後輩が一堂に会して語り合える今回のような機会が今後も続いていくことを祈念しています。

青山野球倶楽部報告

小沢　謙一（93回）'85卒

新潟高校野球部OB会の青山野球倶楽部（高橋昇会長73回卒）は、毎年8月15日に新潟商業野球部OB会の葦原野球倶楽部と定期戦を行っています。会場は、ここ数年はエコスタジアムで開催が続いていましたが、今秋から新商の校舎建替えが始まり、グラウンドがレイアウト変更になる為、第38回目となる今回は、久々に思い出深い新潟商業グラウンドでの開催となりました。

昨年の猛暑とうって変わって最高気温が平年以下の30℃と比較的涼しく感じられる中で、現役とOBが揃って整列して開会式を挙行し、午前中は来春のセンバツ出場を目指す現役の新チームが初対戦。

3月から元プロ野球コーチの広野功氏から打撃コーチを受けている成果が着実に実を結んでか、新潟高校の打線が序盤から爆発して8対1で大勝。秋の北信越大会に大きな期待を抱かせる内容の一戦となりました。

午後からは青山OBと葦原OBの一戦。当方は老若混成で17名が参加。対する新商は体力の勝る社会人野球チーム新潟コンマーシャル倶楽部のメンバーに序盤から切り替えたこともあり2対15でコールド敗けを喫しました。さりとて、青山OBにとっては年に一度の硬球に触れる機会、それぞれの想いを胸に懐かしい新商グラウンドでのプレーに興じていました。

また、高校野球OB大会が8月9日、10日に鳥屋野球場で開催され、現役大学生を中心とする若手OBで構成するメンバーが参加しました。昨年の大会は決勝で新潟南に惜敗しましたが、今年は九日の初戦で柏崎OBに19対4（5回コールド）で快勝、続く10日の決勝戦では新津高OBと対戦して9対3で勝利し、優勝しました。

さて、現役チームの近況ですが、センバツ出場を目指して戦った秋の県大会は、夏の準優勝投手を擁する関根学園に勝利し六年ぶりにベスト8進出するも準々決勝で私学の一角北越高校に惜敗。投打ともに実力を上げてきているので、来夏の甲子園出場を本気で期待しています。同窓会の皆様方もぜひとも注目していてください。

2014年　青山ラガークラブ『青山ラガー祭』

幹事　小林　正人（96回）'88卒

毎年恒例の「青山ラガー祭」を8月9日（土）に新潟高校のグラウンドにて盛大に開催いたしました。72回の丹羽正之先輩（OB会会長）・折戸明先輩・三國正昭先輩を筆頭に、総勢39名のOB・OGの皆さんにご参加頂き、誠にありがとうございました。

中でも当OB会では「レジェンド」とも呼べる、濱藤監督の同期の初代花園出場メンバー（94回）が例年になく大勢で参加し、交流試合でのプレー・懇親会での激励の言葉で、現役メンバーのみならず若手OBにも良い刺激になったと思います。

今年度は3名の3年生が残り、2年生の6名と、ここ数年では一番の15名の1年生が入部し、総勢24名で頑張っています。当日の交流試合では1年生が中心で、まだまだ慣れていないということもあり、若手が中心のOBチームには敵いませんが、随所にキラリと光るプレーが数多く見受けられ、今後に大いに期待を持つことができると感じました。

今回初参加や久しぶりの参加のOB・OGの方々も多くおり、私自身も旧交を温める機会を頂き、とても良い会であったのではなかったと感じております。

又、今回欠席の小見先輩（92回）に代わり、若手OBから懇親会の進行を務めてもらい、OB会の新陳代謝も着々と進んでおり

ます。今後も、新年会等のイベントを開催の予定です。今回参加されなかった方も含め、数多くのOB会の皆さんからのご参加を頂き、OB会のより一層の一致団結を望みます。濱藤監督も常々「20名以上の新入部員の入部があれば、花園出場は大いに期待してもらっていい。」と言ってらっしゃいますので、目標には若干届かなかったものの、今後の選手の成長と濱藤監督の手腕に大いに期待すると共に、OB会の皆さんからも可能な限りご支援をお願いしたいと思います。

山岳部「創部60周年記念事業」を終えて

岩﨑　保之（97回）'89卒

山岳部は、昭和27年の創部以来、平成24年に60周年の節目を迎えました。OB会では、馬場泰会長（74回）、石澤浩事務局長（79回卒）を中心にして60周年行事実行委員会を組織し、顧問の先生方のご指導のもとで名簿を整理し、記念誌『ふくろう』を発行しました。

記念誌『ふくろう』は、過去、40周年、50周年の際にも発行したことがあります。60周年記念となる今回は、お二人の旧顧問の先生方、36人のOB・OGの皆様から寄稿いただくとともに、現役生からも声を寄せていただきました。

また、昨年1月3日には、新潟万代シルバーホテルを会場として記念祝賀会を開催しました。関係する先生方7名を来賓としてお迎えし、66回を先頭に118回までのOB・OG66名が一堂に会する華やかな祝賀会となりました。

この祝賀会では、OB会の新しい役員として、会長に櫻澤雅志氏（86回）、副会長に上杉知之氏（95回）、事務局長に岩﨑保之（97回）、事務局幹事に江口哲央氏（98回）が選任されました。そして、新しい役員の初仕事として、10月25日の青山祭で「OB・現役交流会」を開催しました（写真）。

交流会では、2年生の新部長さんから活動報告があった後、現役部員一人ひとりから自己紹介がありました。また、OBからは、日ごろの練習の様子について質問があったり、OBが現役だった当時の様子についての話があったりしました。部員全員が山を愛している点では昔も今も変わりませんが、装備の進歩や時代の要請を受けて、山岳部の活動自体は大きく変化してきていることを感じたひとときでした。

特別寄稿

第38回青山ゴルフ会

飯島　信輔（69回）'61卒

平成26年10月26日（日）（於）紫雲ゴルフ倶楽部　参加者28名（50～88回）

成績は次のとおりです。

団体　優　勝　69回（ネット220.8）

準優勝　88回（ネット225.4）

個人　優　勝　櫻井弘美　88回（グロス87　ネット71.4）

準優勝　岡田尚子　69回（グロス94　ネット72.4）

秋晴、微風、気温20度の申し分ないゴルフ日和の下、精鋭28名は優勝を目指し鎬を削りました。

団体優勝、個人優勝ともに69回と88回の争いに成りましたが、団体優勝は選手層の厚い69回に、個人優勝は88回の櫻井弘美さんにそれぞれ栄冠が輝きました。

69回のメンバーは、チームリーダーで安定したスコアを出す「坂爪征基君」、東京から駆け散じたパワーヒッター「岡田尚子さん」（個人準優勝）、69回のエースで冷静・沈着なプレイヤー「大谷勝美君」（ベストグロス賞）、プロゴルファー藤田寛之なみゴルフスイングで飛ばし屋「笠原弘君」、豪快なスイングで切れ味良い「鈴木将夫君」そして果敢に攻める「飯島信輔」の多彩な6名です。

69回の参加者は、他の回の参加者より多いことから「下手な鉄砲も数撃ちゃ当たる」の如く、有利であると揶揄されていないか？概して、参加者が多いことは、有利になるかも知れませんが、69回は少数メンバーでも十分戦えると自負しています。

因みに、6名のスコアはグロス84～97（平均92.0）、ネット72.4～77.0（平均74.8）で比較的平均しており、メンバー誰でも団体優勝に貢献できる力を有しています。

特筆すべきことは、個人優勝者と準優勝者は女性が独占したことです。これは、たまたまレベルの高い女性が参加したことによるものか、はたまた男性が不甲斐なかったのか定かでありませんが、いずれにしても女性が活躍することで女性参加者が増えるでしょうし、男性も大いに奮起することで、青山ゴルフ会が益々盛況になると思われます。

個人優勝者 88 回櫻井弘美さん

上村会長と団体賞優勝 69 回の皆さん

東大青山学生会

小田　健太郎（121回）'13卒

最高学府東京大学。その名前ばかりが独り歩きしてしまい、肝心のリアルな大学の姿が見えない。「どうやって勉強すればよいのか」、「東大生はどんな生活をしているのか」など、知りたいことは山ほどあるが、聞くあてがない。そういう思いをしてきた私たちが、自らの経験を母校の後輩たちに還元させようと作ったのが、東大青山学生会です。新潟高校生と東京大学及び東大生との地理的・心理的距離を縮めることを目的として、現在4代目の執行代が活動を主導しています。

日常的には、ホームページやSNSを用いて、現役生徒から

の個々の学習相談や質問を受け付けていますが、メインの活動は、年に数回新潟高校で開催される現役生徒との座談会と、新潟高校の進路指導部の企画による夏季休業中に行われる東大訪問での案内です。座談会では日々の勉強方法や部活との両立、東大を目指した動機や大学の実情について多く聞かれ、自身の経験をもとにアドバイスをしています。東大訪問では、今年度は1、2年生の希望者136名が参加しましたが、実際に本郷のキャンパスを案内して、東大の雰囲気を少しでも身近な存在に感じてもらえるよう紹介しています。確かに勉強法や大学の実態といった言説は書店に行けば、あまたあふれています。しかし、私たちは新潟高校の卒業生だからこそ言えること、そしてあくまで個人的な意見・経験として教えることを心がけています。

まだ出来て日の浅い組織ですが、ゆくゆくは社会に出てからもつながり合い、同時に新潟高校生への情報提供も継続的に行う。そんな息の長い、柔軟につながりを保っていける組織にしていければと思っております。

海外の同窓生だより

パリにて『運命に身をゆだねて』

三村　兼哉（71回）'63卒

「義を見てせざるは勇なきなり」、この言葉は私のNHK時代の上司が毎日のように呟いていた言葉です。45年ほど前の話です。最近この言葉がいやに耳について離れません。

また「奇跡は信じる者にしか起きない」とかいう言葉も私の記憶に残っています。この「奇跡」と言ってもいいような出来事が、「阪神・淡路大地震」の際に私におきました。地震の直後、「生命は自分だけのものではない。いろいろなものに生かされている命である」というお告げを受けました。正に生かされている、と感じたのです。

3歳の時に父を亡くした私には不思議なことが度々起きたのです。そのせいでしょうか、「運命」というものを強く意識するようになったのです。

私の意識の中では「運命」はこの世に生を受けた時に皆が手にしてくる「阿弥陀くじ」のようなものだと思っています。この「くじ」に横線を一本引くだけで、自分の運命が別の方角に動き出すのです。

私の場合、それが「海外移住」でした。70年の自分の人生を振り返って見ると、全てが今の私に繋がっています。当たり前の話ですが、今の「私」になるように組まれていた「筋書き」のように感じるのです。

2年ほど前から運命に導かれるように「東日本大地震」の被災地復興の支援活動をしています。そして本年6月にヴィクトル・ユーゴ原作の無声映画「笑う男」を「フランス八重奏団」の生演奏をバックに上映しようという計画を立てています。

この映画はドイツ人のパウル・レニ監督が1928年にハリウッドで制作したものです。1998年にカンヌ映画祭で上映され、岩波ホールの故高野悦子女史がいたく感激し、翌1999年に「彩の国さいたま国際映画祭」でオープニング・プレミア上映という形で日本上映が実現したのです。上映後、全員がスタンディング・オベーションの大喝采だったということです。

この「笑う男」は世界中で公開されましたが、特にアメリカでは、かのクリント・イーストウッドが2晩も続けて見に来て涙する姿が人目を引いたと聞いています。

この映画を日本各地で上映・演奏し、東北の被災者に元気になってもらおう、という趣旨で、現在上映会の実現にむけて努力を続けております。興味がおありの方は左記のメールアドレスにご連絡ください。資料をお送り致します。

kmcrescendo0544@gmail.com

追悼文

栃倉　浩先生（69回）ご逝去
（元青山同窓会校内幹事）

旧職員　上杉　雅之（60回）'52卒

先生は昭和50年に母校に帰り英語科教諭として約20年間後輩の指導に情熱を傾けると共に、校内幹事として青山同窓会の仕事に携わってこられました。東京外国語大学ロシア語科ご卒業の先生は、在職中に請われて新潟大学で非常勤講師としてロシア語を教えました。ご退職後は新潟医療技術専門学校でも英語の指導にあたられました。2012年春不幸にも病魔に襲われ、僅か二年半の闘病の後、昨年十月一日急逝されました。享年73才でした。

2014年10月3日のお通夜の席でご遺族に請われて捧げた弔辞を紙上にご披露させていただきます。

弔辞

栃ちいさん、栃倉浩先生、水の泡が突然消えるように、あなたはこの世から姿を消してしまわれました。

「いい人はどうして早くこの世からいなくなってしまうんだろう」。あなたの元同僚入田年夫先生はこう言って嘆いておられます。僕もまったく同感です。

かれこれ35年も前のことになるんだけど、新潟高等学校90回生の学年担当のチームを組む時、当時まだあった通信制課程の生徒と春の修学旅行に行く予定だったあなたを、無理矢理全日制にひきぬきチームに加わってもらったのが、栃倉先生とのつき合いの始まりでしたね。後にあなたからさんざん嫌みを言われたね。だって楽しい修学旅行に行かせなかったんだから。

心強い味方を得た90回生の結束はたいへん固くなり、卒業後五年に一回の同期会には毎回約180人前後が地元新潟に全国それぞれの活躍の場から集まり

旧交をあたためています。

先生は、日本語、ロシア語、英語をたくみに操り、ユーモアあふれる授業は生徒にとても人気がある、いわゆる名物教師でした。また、フランク永井、森進一、フランク・シナトラばりの美声でカラオケのスターでした。人生を巾広く楽しんでこられましたね。いつも朗らかで生々としていた。心に愛の豊かな人柄で駄洒落がたくみな名エンターテーナでした。しかし、半面、新潟高校他数校で、学校生活の大黒柱である教務主任をつとめた実績が物語るように、正確で妥協を許さぬ厳しい仕事ぶりは心から信頼できるあなたの天性でした。ごくろう様でした。

『ノボさん』という小説が昨年出版されました。副題に「小説正岡子規と夏目漱石」とあります。「ノボさん」は子規の愛称だったようです。著者の伊集院静は、漱石が友人子規について書いた一文を紹介しています。僕の今のあなたに対する思いを表わすためにその一文を引用させてもらい、読ませていただきます。

「人の生は水の泡のようなものであろうが、先に泡と消えた君とまだとどまっている私とは同じ水の中でつながっている。君はそのこころを私に残して消えたけれど私のこころもいつかは消える。死は君ひとりだけにやってくるものではない。私も同じだ。しかし君の記憶はたしかに私の心の中に残っている。」

「栃ちい」、栃倉先生やすらかにお休み下さい。　合掌

平成二十六年十月三日

元同僚　上杉　雅之

同窓の本

「昭和歌謡曲の記憶」上村　光司著（50回卒）

長谷川　義明（61回）'53卒

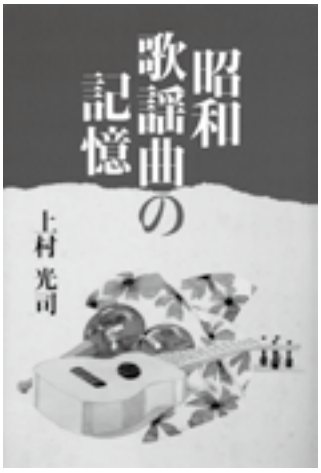
大正14年生まれの著者が実際に見聞した、昭和の、戦争も経験した、激動の時代の変化とともにあった歌謡曲の変遷をまとめられたものであります。「歌は世につれ　世は歌につれ」です。ところどころにご自身の生活の記録もあって自分史ともいえる内容となっています。

上村氏は新潟の街中である大畑で育ち、古町界隈の昔の様子にもふれられていて懐かしい。青山51回卒。新潟日報社入社、社長も歴任しておられ、青山同窓会会長もお務めいただきました。

昭和の64年間を6期に分けて、それぞれの時代によく歌われた歌謡曲を取り上げて、時代の状況や歌の背景、歌手、作曲家、作詞家のエピソードや他作品の紹介など、まさに幅広く縦横無尽の切り口で語られています。懐かしい、聞いたことのある名前が多く出てきますので、そうだそうだと相槌を打ってしまいます。

今でもカラオケなどで歌われている歌が、意外に古い時代に作られていることに驚き、やはり時代を代表するような歌はどこか人々の心を打つものがあって、時代を超えて歌い続けられているものなのだと妙に納得します。

（新潟日報事業社　２０１４年９月26日発行）



卑弥呼から神武へ　日本の古代史を見直す

吉原　賢二（55回）'47卒

２０１４年７月に『卑弥呼から神武へ　日本の古代史を見直す』（吉原賢二　文芸社）が出版された。卑弥呼の都のミステリーの解明が提案されており、古代越後が大和王権の勢力拡大の過程で重要だったことが分かる。一般人を対象としたものであるから読みやすい。

胎内市の城の山古墳の発掘は２０１３年に全国的な話題になった。４世紀前半の武人の遺骸と立派な鏡や勾玉等の副葬品が出土した。著者はその古墳の丘に立ってインスピレーションを得たかのように新しい考察を発展させた。古墳の所在地は胎内市大字大塚字弥彦であり、被葬者は弥彦神社の祭神の一族であると推定される。

弥彦神社に伝わる伝承（伊弥比古神社記）から被葬者の最有力候補は天香具山命（弥彦神社祭神）の息子の天叢雲命である。弥彦一族は大和王権の神武天皇の系統と親密な関係にあった。

このことから神武天皇の実在性や、その年代が分かり、神武天皇は3世紀末から4世紀初めに活躍したものと推理される。

卑弥呼の子孫としての神武東征の前に、饒速日命の東征があった。饒速日命の都は桜井市（奈良県）にあり、これは北九州の卑弥呼の首都に対して副都の位置にあったと推理される。これにより『魏志倭人伝』の卑弥呼の都がどこにあったかの論争は解決される。

以上著者の論旨は明快で論理的であり、反響も大きく好評である。多くの青山同窓生におすすめしたいものである。

（吉原賢二著『卑弥呼から神武へ　日本の古代史を見直す』文芸社　２０１４年７月15日発行　定価（本体1、３００円＋税）

四〇〇文字の小宇宙：永井梓著
読売新聞夕刊名物「よみうり寸評」20年分を凝縮した自選集登場

河野　開（62回）'54卒

著者が「よみうり寸評」を纏めて出版したのは「コラムニストの目」についで二冊目です。私が「よみうり寸評」を毎日の日課として愛読し始めたのは20数年前の読売新聞電子版です。記事をPCを使い自分流に編集し、コメントを付け、日記代りにファイルして勉強しました。著者は博学多才！毎日が感心の連続。コラムニストとして、僅か４００文字の中に起承転結、落ちを付けて締めくくる才能に脱帽し、毎日教育的指導を受けつつボケ防止の日課になった。27年前から彼が担当した「よみうり寸評」は読売新聞夕刊一面に掲載された。海外からでも「よみうり寸評」は読める。インターネットに国境は無い。今では夕刊が配達されない地方には、翌日の朝刊2面に掲載されるようになった。読者は寿司店「すきや橋次郎」のお客のようにお任せ寿司を注文して、何が出てくるか楽しみに待ってる食通の様だ。日付を特定して検索すると寸評にはタイトルが付いている。「四〇〇文字の小宇宙」は10章に分類され、コラム1つ1つにタイトルが付いていて読みやすい。この一冊は、活字離れした若者、スマホ漬けの人達には必読の書です。面白くて飽きさせない現代史です。

著者は水泳部で活躍した同級生です。そして四半世紀続けている夏休みに童心に帰って海水浴を楽しむ浜茶屋「曽我廼家の会」の仲間です。

１９９２年10月17日に新潟市体育館での新潟高校百周年の記念式典で、時の経団連名誉会長斎藤英四郎氏（36回）と共に記念講演した62回生です。また20世紀の最終日、２０００年12月31日に読売新聞に掲載されたミレニアム社説「二十世紀の記憶を語り継ごう！凛として未来へ」も収録されています。「四〇〇文字の小宇宙」の帯には「これぞ読ませる文章のお手本」とありますが、読後感は詩情溢れる「四〇〇文字の叙情詩」です。酔わされました。

中央公論新社刊

緒方俊雄著
「慢性うつ病は必ず治る」幻冬舎新書

石黒　明徳（旧職員３年担任）

彼は本校第84回卒。トップクラスの成績だったが秀才ぶらぬ明るい人柄で人望があった。惜しくも大学受験直前に身体を壊し第一志望校は断念。早稲田大学理工学部・大学院卒後、ソニーの研究室で21年間、技術者として半導体レーザの研究・開発に意欲的に取り組んだ。

その職場で、心の病で体調を崩した人に出会ったことが、カウンセラーとしての新たな人生を歩み出すきっかけとなったという。物の豊かさと反対に心を病む人が急増したバブルとその崩壊の時代。彼は物より心が大事と確信し、フロイトやユング、臨床心理学の本を読み漁り、カウンセリングを10年勉強。ソニー人事部での臨床経験を手始めに実践と研究を積み重ね、その実績を評価され、２００９年度日本産業カウンセリング学会・学術賞を受賞。

彼の著書の根底にはいずれも人間の弱さに対する理解と温かい眼差しが感じられる。また、彼が手掛けた多くの臨床例が具体的に述べられているので、同じ生き辛さを抱えている我々にとっても他人事ではなく、ぐいぐい惹きこまれて一気に読んでしまえる。

クライエント（患者）自らが不適応を起こしている現実を直視し抑圧された感情を解放することで生きるエネルギーを取り戻していく。それを助けるのがカウンセラーだという。著者は出口の見えない暗闇を抱えている彼らのつらさに、親身に寄り添い、ひたすら耳を傾け試行錯誤を重ね共に解決を模索してきた。一人のクライエントに60回ものカウンセリングを施すこともあるという。何としんどい仕事だろうと思う。しかし著者は言う。「クライエントから多くの事を学ばせてもらった」と。

先日テレビで久しぶりに彼の姿を見た。お笑い芸人につっこまれながらも、広く社会にうつ病への理解を深めてもらおうと努めていた。しなやかに自立を遂げた彼の姿がそこにあった。

「勝ち組の男は人生で三度、挫折する」中公新書クラレ

「すぐ会社を休む部下に困っている人が読む本」幻冬舎新書

＜平成 26 年度　部活動大会結果報告＞

陸上競技　第 44 回　新潟県高等学校選抜陸上競技大会
- 男子 110 ｍH　第２位　安立悠紀
- 男子４× 100 ｍＲ　第５位　淺香、古俣、安立、稲川
- 男子４× 400 ｍＲ　第６位　有波、安立、渋谷、淺香
- 女子走高跳　第２位　今井友佳
- 　第４位　鈴木茜理
- 女子走幅跳　第７位　池田菜月
- 　第８位　笠原有未
- 女子砲丸投　第４位　鍋谷有花梨

第 19 回 北信越高等学校新人陸上競技大会
- 男子 110 ｍH　第３位　安立悠紀
- 男子三段跳　第１位　稲川尚汰
- 男子八種競技　第２位　石井雄大

水泳　第 26 回新潟県高等学校秋季体育大会水泳競技大会
- 男子総合　第５位　男子 50m 自由形　４位　目黒佑樹　７位　遠藤　丈
- 　男子 100m 自由形　３位　目黒佑樹
- 　男子 100m バタフライ　４位　丸山伸吾
- 　男子 200m 個人メドレー　８位　池田森人
- 　男子 400m 個人メドレー　４位　池田森人
- 　男子 200m リレー　５位　目黒・池田・遠藤・丸山
- 　男子 200m メドレーリレー　５位　池田・遠藤・石黒・目黒
- 女子総合　８位　女子 50m 自由形　５位　伊藤ひかり
- 　女子 100m 自由形　４位　伊藤ひかり
- 　女子 200m 平泳ぎ　６位　岸田佳子
- 　女子 200m リレー　８位　伊藤ひかり・伊藤潔音・小柳・岸田
- 　女子 200m メドレーリレー　６位　岸田・小柳・伊藤ひかり・伊藤潔音

女子テニス　全国選抜高校テニス大会新潟県予選会最終予選　３位
- 新潟県高等学校テニス選手権大会　シングルス　ベスト８　小野朋花

フェンシング　平成 26 年度新潟県高等学校秋季体育大会フェンシング競技大会
- 男子学校対抗戦　２位
- 女子学校対抗戦　２位
- 男子個人フルーレ　４位　渡邉奏平
- 女子個人フルーレ　２位　武田実沙希　３位　坂井　鮎　４位　佐藤玲奈
- 男子個人エペ　優勝　渡邉奏平　２位　小林慶祐　５位　臼井拳人　６位　今井啓介
- 女子個人エペ　２位　坂井　鮎
- 男子個人サーブル　３位　田中大祐　５位　星　紀行
- 女子個人サーブル　３位　佐藤玲奈

ボート　平成 26 年度新潟県高校秋季ボート競技大会
- 男子ダブルスカル　１位　池田駿平・鎌田理喜　５位　堀川竜靖・山田　海
- 男子クォドルプル　３位　田中　舜・中島文哉・玉木空渡・保坂和哉・山際涼太

弓道　第 60 回新潟県弓道選手権大会高校の部
- 個人女子　第１位　青木美波 … 第 33 回全国高等学校弓道選抜大会出場
- 　第４回北信越高等学校弓道新人大会出場
- 団体女子　第３位　… 第４回北信越高等学校弓道新人大会出場
- 個人男子　第３位　増田智哉 … 第４回北信越高等学校弓道新人大会出場

写真　第 28 回新潟県高等学校総合文化祭
- 優秀賞　野崎未紗　（全国大会（第 39 回全国高等学校総合文化祭）出場）
- 学校賞４位

合同撮影会写真コンテスト
- 最優秀賞　村山　光

吹奏楽　第 38 回新潟県アンサンブルコンテスト
- 高等学校の部　木管８重奏　金賞　県代表選考会出場
- （笹本和弥　山田絵理　工藤真理衣　伊藤優華　保苅菜摘　田中彩芽　井口萌子）
- 高等学校の部　クラリネット４重奏　金賞（堀花菜子　渋谷朋佳　齋藤　夢　石山実咲）

囲碁　新潟県高等学校総合文化祭囲碁大会
- 個人戦　Ａブロック　４位　曽川マリー　６位　松村朋直

書道　第 28 回新潟県高等学校総合文化祭
- 全国大会（平成 27 年度　滋賀大会出場決定）　２年　結城夏穂

将棋　第 23 回全国高等学校文化連盟将棋新人大会新潟県予選
- 男子個人戦　３位　橋本　颯

放送　第 34 回ＱＫ杯校内放送コンクール
- 朗読部門　恩田望美（奨励賞）
- ラジオ番組部門　comic-community（２位）
- テレビ番組部門　にじをおとどけ！（奨励賞）

104回H8年
大谷　茂
川端　周
田村大介
濱　勇
105回H9年
遠藤尚史
川合健太郎
小松絵理子
田中健一
寺尾　仁
渡邉千絵
106回H10年
齋藤健太郎
107回H11年
阿部　剛
五十嵐悠介
長谷川真弓
廣瀬雄一
真柄　望
真柄洋平
山田大史
108回H12年
井上　勉
北畑雄一郎
増井由紀子
109回H13年
遠藤公太
坂上悠太
高口　均
山際　章
110回H14年
石崎　徹
清野　豊
由比克憲
111回H15年
大髙憲子
齋藤真理
富山泰行
堀　あい
三浦千晶
横井大樹

112回H16年
佐藤朋弥
野々村頼子
吉田丈夫
113回H17年
大塚　智
川村　望
河野圭之
佐藤あずさ
関本智美
長谷川　創
波多野雅敏
樋口真佑子
真壁枝里
渡邉綾子
114回H18年
風間祥子
佐野満実子
115回H19年
石川成明
枝並直樹
大森大貴
小山貴之
高橋茉那
塚崎哲子
戸田史織
長谷川宝史
林　康貴
渡邉大介
116回H20年
河本恭介
久須美智子
佐藤憲明
本間友香理
三上由佳莉
117回H21年
今成悠理子
大塚　拓
吉瀬璃子
坂上真帆子
萩原かな恵
廣島周平

118回H22年
会田俊貴
大嶋拓実
恩田詩織
髙野真行
千代　透
中村貴明
119回H23年
木村亮太
久須美裕子
久保田彩織
島垣朔歩
鈴木智仁
関谷祐香
高須保紘
竹内　優
中村真衣
山口　彩
渡邉　緑
120回H24年
大沼萌子
髙橋杏奈
種田朝音
手塚朱映
外山倫成
中澤佑介
水戸部慶彦
三輪矢真人
渡邉広樹
渡辺優香
121回H25年
柄澤秀親
齋藤　愛
佐藤　も
鶴巻　瑛
伴田基拓
宮島美佳
山田恭巳
余湖未笛
122回H26年
大嶋和海
押木　淳

加藤　爾
久保田　傑
角木啓太
張替若菜
平松八重子

通信制
1回S34年
上重正一
2回S35年
青柳　勲
桜井　修
4回S37年
大谷孝二
加藤　守
近藤一弥
5回S38年
高橋一夫
星野リエ
6回S39年
幸田　進
髙橋富榮
本保銀一
山川春雄
養田太一郎
7回S40年
天野昭治
内山紀子
片原裕子
外山悦子
8回S41年
小林勝代
髙橋榮治
田辺　泰
間島キソ子
松縄　清
9回S42年
橋　栄子
田村清三郎
角田清宣
寺尾ヒデ子
松澤美知子

10回S43年
阿部恭平
吉楽政子
木ノ下健次
佐藤イチ子
佐藤達夫
田辺サチ子
藤田隆一
山田一夫
11回S44年
小林幸子
牧野榮策
12回S45年
秋間一男
阿部勇太郎
小野塚　操
小林京子
田辺辰次
田村幸栄
中屋春美
平澤信子
三國昷子
13回S46年
八木清宣
吉沢利子
14回S47年
監物勝英
佐藤芳子
高橋ユリ子
宮澤洋子
矢口和三郎
15回S48年
石川富子
小松朝子
佐藤キヨ子
三宮敬三
16回S49年
小黒恒雄
古川とみ
17回S50年
水晶とい

18回S51年
渋谷治紀
諸橋正子
矢部恵三子
19回S52年
勝島テル子
中林巴子
若林道子
20回S53年
小島英二
嶋田　博
清野喜美男
宮尾正一
21回S54年
阿部洋一
清野義昭
22回S55年
佐々木浩之
佐藤マツイ
種村昭久
種村恵美子
田村和男
戸嶋　孝
外山トミエ
藤田栄六
藤田キミエ
松原俊昭
丸山秋一
三原仁美
向川幸子
山本ヤヨイ
23回S56年
青木和枝
五十嵐タツミ
太田光雄
片桐　登
中野藤美
24回S57年
会田正延
須貝幹雄
26回S59年
近藤英子

清田輝雄
山崎喜男
27回S60年
阿部幸一
荒木恵美子
安倍武勇
石川孝子
岡田忠雄
熊田照子
栗原　隆
永野正人
28回S61年
伊藤雅子
中澤　功
長谷川　勇
渡辺ハマ
渡辺久子
29回S62年
佐々木テイ
竹内正朋
丸山耕藏
陽田ナツ子
渡辺美恵子
30回S63年
本多孝一
増田朋子
31回H1年
石井幸代
金子真佳
金子よう
菊地正明
関　テル子
滝澤公晴
田中麻紀子
宮崎圭央
32回H2年
菊地光子
武　正志
山賀利夫
33回H3年
桑原恒夫
駒沢　聡

丸田賢一
渡辺作司
渡辺むつ子
34回H4年
斉藤幸子
関川亮子
田中博子
米山賢治
35回H5年
伊藤歌余子
小林直樹
齋藤康男
福田知恵子
36回H6年
椎谷郁子
37回H7年
神林早苗
笹川　薫
38回H8年
柿崎フミ子
轡田敏春
成田二郎
古瀬勝人
39回H9年
大嶋タマ
小林　弘
小林優喜江
樋口節子
40回H10年
曽我昭仁
永原正朋
星　恒市
41回H11年
本間明子
42回H12年
畔柳　圭
石田美砂子
岡田武雄
金野真紅
永田裕子
星野レン子

43回H13年
鶴巻新太郎
44回H14年
石原マサ子
近　雄介
45回H15年
大杉貴美枝
46回H16年
大崎シズ
小柳トミエ
丹後沙穂子

青山同窓会報発刊１００号に寄せて

青山同窓会報は昭和40年7月創刊以来本号で１００号を迎えました。この50年にわたる期間、会報の発行を続けられてきた諸先輩、本校先生方はじめ関係各位に深く感謝と敬意を表させていただきます。

「会員の動静と学校の動きをお伝えする」という創刊の趣旨は着実に受け継がれ、各地同窓会支部のたより、各期およびクラブＯＢ会、通信制だよりなど幅広い寄稿により内容の幅が広がってまいりました。

将来の志を胸にした多感な青年時代の思い出は生涯にわたり心に宿ります。幾年月重ねても旧友との語らいのよりどころとして同窓会報がいつまでも皆様のお役に立ち続けることを願ってやみません。今後とも年齢にかかわらず多くの会員の方のご寄稿ご愛読を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

（会報編集長　石井智裕（79回））

同期会を開催される期の幹事の方へお願い

同期会の開催に合わせて、是非、会費納入者の拡大にご協力下さい。早めに、開催の期日を連絡頂ければ、事務局で、同窓会報・会費納入のお願い・振込用紙そしてＡ４サイズが入る角２の同窓会封筒を人数分用意しておきます。よろしくお願いします。

会報へ寄稿される方へ、原稿字数のお願い

原稿の字数は８００字から１，０００字の間で書いて下さるようお願いします。１，０００字以上ですと紙面の関係で載せられなくなることがありますのでよろしくお願いします。原稿については掲載時期や紙面制限の関係で、字句文章の修正、割愛をさせていただくことがあります。

表紙題字：小川　和恵（101回）　イラスト：池主　憲夫（68回）

野島常雄
野村正史
長谷川和彦
長谷川宏昭
林　睦
廣嶋　顯
藤井大三郎
藤巻則夫
藤原　明
保苅俊治
前田和夫
丸潟　孝
源川信栄
村井圭子
持田佳代子
役山孝志
山田文宗
山本伸司
横尾尚巳
吉田至夫
吉田英幸
渡部高士

80回Ｓ47年

青木義夫
旭　慶典
東　義雄
安住利恵子
足立亘宏
阿部郁男
安沢美和子
池　淳一
池田博文
伊藤　明
伊藤俊輔
今井敏明
岩崎泰則
植木邦彦
内山政二
遠藤敬三
扇　嘉明
大霜博之
太田啓子
大塚善紀
小片　守
長　正子
小畑　修
片山　修
金子正弘
菊池隆宣
岸　直毅
栗田茂男
桑田正栄
小池雅彦
小林栄思
小林雅博
小林亮介
小柳文英
小山　晃
後藤良行
齊藤正春
坂上富士男
櫻井　優
笹川睦男
佐々木綾子
佐藤信也
佐藤正昭
柴田一枝
白井一栄
鈴木　努
鈴木紀子
関　明
関本道章
竹本泰子
棚橋　忠
田邉　肇
玉木友二
田村祐子
津野正裕
遠山知香子
中澤秀栄
長沼正昭
長谷川祐一

畑　新一郎
羽鳥敬彦
原　永庫
福田　勉
堀場　恵
本間政子
前田義憲
枡山康二
森岡一彦
山井健介
吉田　力
米川宏一

81回Ｓ48年

相場　剛
朝井　豊
足立泰儀
荒川　洋
五十嵐　渉
石川正記
伊藤秀夫
浦澤義明
遠藤則夫
大塚　明
勝山新弥
鎌田昭子
神田　剛
GARMORY 真理子
久須美浩二
桑原　隆
小出千秋
鴻田利治
小飼雅道
斎藤　直
坂井　浩
坂田光子
桜井仰介
笹川典男
佐藤宏晃
佐藤弥生
佐野恭子
佐野　裕
澤口昭一
島垣　斎
霜鳥雅徳
白石義人
杉本年行
鈴木正弘
砂田徹也
諏訪正樹
高木　実
滝上由行
田口祐子
竹石邦夫
竹石尚史
竹内　淳
田尻美砂子
田中　聡
田中秀人
茅原　保
張　高明
冨井信喜
中沢　聡
長井智子
長北敏弥
成澤林太郎
成海孝二
平田栄子
深津茂夫
藤沢直子
藤村　修
藤森克彦
本間桂子
本間　大
本間寿晴
本間政文
松井　望
松崎美郎
丸山晋司
宮里圭一
三膳正伸
村山　裕
山口由美子

山田　徹
山本林太郎
鷲沢直也
鷲津　勇
渡辺昭雄
鰐渕　博

82回Ｓ49年

青木定夫
青瀬芳紀
朝倉孝英
池田勝久
石崎昂一
宇佐美明男
江畑　徹
大石昌幸
太田宏信
大塚英明
大村篤子
風間　隆
川上祥春
日下部朋子
熊谷　実
栗原道平
小島由紀夫
小林しおり
小林茂広
小林　孝
小林立彦
小針　隆
駒井早苗
小亦　斉
斎藤　滋
斎藤直子
坂上　極
笹川稔郎
佐々木広介
佐藤荘一
佐藤佳彦
澤田俊明
紫竹伸子
七里佳代
高橋英明
田中　仁
谷　長行
土田利男
津野吉裕
戸田史朗
富川拓朗
内藤　理
中林昭裕
中林二郎
南雲郁子
南雲建男
成田昌稔
生野隆史
平田カオル
福嶋　元
藤井彰子
藤井昌幸
不二崎正人
藤田博久
真谷誠祐
松浦恵子
松田　隆
松田正史
宮島一敏
宮島静一
宮島とも子
目黒茂樹
八藤後茂樹
山崎小夜子
山本剛史
渡辺健一
渡辺宣昭

83回Ｓ50年

相沢秀幸
青木忠雄
浅間芳朗
阿部和弥
天野　忠
石本真琴
今井英雄

植木秀功
牛木宏子
梅津雅之
枝並幸男
遠藤光郎
大関友博
大関文雄
岡田　潔
荻荘則幸
小越恵次
風間磨理子
川上孝子
河原貢司
木下康司
窪田　久
熊谷康夫
熊木みや子
栗林　仁
小沼進一
小松茂樹
駒村　繁
小山隆夫
近藤周子
近藤敏明
後藤　泉
斎藤伸二郎
桜井秀昭
佐藤悌二郎
塩谷暢夫
島田　茂
関矢孫史
高橋克人
高橋慶子
高山郁男
高山佳郎
竹内公英
田中英之
玉木慎一
田宮　浩
塚本裕二
登石　守
富山武美
豊岡幹也
豊田　清
Dougan 知子
中戸雅博
中村昌子
中山　徹
長澤恵依子
西田博子
橋本多佳子
藤崎直美
藤田祐子
古川　靖
本間憲之
町田　昇
水原章貴
宮内博英
村尾弘子
最上正人
山際和明
山口虎彦
山作房彦
吉澤　篤
吉田徳治
吉田友章
吉田信男
吉水　敦
若杉　忍
渡辺光一
渡邊　卓
渡辺友昭
渡辺正昭

84回Ｓ51年

相田百合子
相場豊隆
阿部俊幸
荒川朋明
荒木泰次
今井康晴
今湊良信
岩崎孝秋

遠藤和彦
大澤　満
小黒志津江
織田順一
勝山綾子
加藤雅一
加藤佳彦
神蔵　宏
小林正史
小林みどり
小松原　宏
小山芳明
近藤公男
近藤秀治
郷　秀人
郷　扶二子
齋藤忠志
坂井朋之
坂井玲子
佐藤　輝
清水　泉
白倉雅晴
高橋建造
高橋裕之
高山有子
田崎和之
田沢　博
中村恵子
野口和子
畠野達郎
日野浦雄治
藤岡近子
星野　慎
本間新哉
丸山正行
三浦　仁
皆川　修
宮崎清也
村上　誠
森岡哲夫
山岡比呂志
山口義弘
山崎元彦
行田　充
芳川敦子

85回Ｓ52年

安沢　智
飯沼泰史
石田富美子
石山長尚
岩崎龍一
大沼文男
大橋　裕
奥村　基
加野貴志
河治政俊
川村和忠
桑原敦志
小林喜代司
小林孝平
小林　敬
小山　朗
佐藤敬以子
佐藤隆司
佐藤やよい
佐野牧夫
清野泰之
園田裕久
高須洋子
高野裕久
高橋　覚
竹内一彦
田中　清
田村　誠
筒井敦子
戸枝秋夫
遠山知良
富山泰男
長野曜子
梨本哲哉
長谷川亮子
花角英世

原田博司
逸見和宏
宮村一明
森　知之
渡邉　毅

86回Ｓ53年

五十嵐　実
伊賀敏朗
伊藤健一
稲田秀一
稲月　原
岡田修司
小野島惠次
加賀田　豊
栗山敏昭
小山妙子
斎藤　健
坂本朋顕
桜井素子
佐々木　元
佐藤　朗
渋木義春
白倉俊隆
関　晴子
瀬谷信一郎
高橋聡子
髙橋みどり
田中照夫
田辺慶直
坪野俊広
中川佳代子
南野伸之
乗兼浩明
林　光洋
樋口敬和
広沢利幸
古山　徹
本田佐和子
宮腰重三郎
森屋　剛
山田規夫
山本泰明
米山文子
渡辺昭夫
渡辺彩子
渡辺政次

87回Ｓ54年

青柳正俊
荒川一成
五十嵐昌子
伊藤　聡
伊藤　量
今西博一
内柴晴子
遠藤聡一
岡村克彦
荻荘　誠
押木　洋
小野和宏
笠原正弘
加藤真理子
北尾嘉朗
駒村美佐子
斎藤　武
斎藤光雄
佐野佳男
清水忠明
白柏基宏
鈴木秀利
須田　剛
諏訪結花
Saltzgaber 純子
高橋直樹
田崎　新
土屋真規
長場秀彦
林　恭弘
藤巻伸一
藤本健介
本多　剛
松田幸治
松本俊輔

山岸　毅
山村要一
渡辺政城

88回Ｓ55年

五十嵐修一
池田全之
池田寛雄
石原基規
今井信一郎
江波恒夫
大島慶子
岸　亮子
君　伸一郎
木村裕毅
草間博子
小竹　聡
小林久哉
小湊知見
齋藤要一
指中さつき
渋谷　聡
白井栄一
武田浩昭
谷内　聡
種村　潔
常木郁之輔
坪井　望
遠山　斉
戸松康雄
中川千夏子
成田小夜子
南場　充
長谷川　弘
林　岳人
古澤俊明
古村昌子
本間　候
本間　茂
宗村信明
八木博徳
吉岡　潤
吉田　厳
渡辺徳昭
渡邊治夫

89回Ｓ56年

相場恵美子
池　信平
石栗健一
伊藤孝憲
今井あかね
加島彰二
川嶋　薫
神林正浩
佐々木裕道
関　康弘
田村雅彦
栃原真与子
遁所直樹
中山　望
長谷川雄一
ハドリー　浩美
星井利樹
山上浩志
山田敏昭
渡邊克彦

90回Ｓ57年

五百川　浩
池　元太郎
石見鉄夫
岩谷　淳
加藤公則
神田　武
儀同政宏
古藤　浩
斎藤俊弘
斎藤浩子
斎藤道明
坂田文彦
佐藤雄一郎
佐藤之彦
菅井　修
隅木信利

関根　浩
高野裕一
高橋美和
田辺　文
田辺裕美
田辺靖貴
塚田裕子
土屋　亨
富山栄子
中村　泰
埜上　洋
樋口正史
本間　洋
宮北　靖
宮腰貴和子
村上恭子
村上　肇
山田修敬
横井義彦
渡辺　栄

91回Ｓ58年

荒若信子
市川　健
上野伸二
長田　充
梶　慎一郎
梶谷敬子
小林裕之
小林康子
後藤　透
後藤寛志
佐藤弥生
塩田博幸
高橋正史
野沢雅行
張替涼子
本間和子
本間正隆
松永　恵
横堀真弓
渡辺輝浩

92回Ｓ59年

大野潮子
小野島あゆみ
金井利郎
河内康志
菊池芳裕
北尾彰朗
小見　毅
近藤善龍
真田一宏
島田　稚
清野美保
中島貴子
畑野晋一
藤嶋尚美
本多久子
丸山まさみ
渡邊二三枝

93回Ｓ60年

行形和滋
内坪琢子
小沢謙一
金子真奈美
川村仁誠
佐藤昌子
森　克也
横山桂子

94回Ｓ61年

阿部素子
今井　卓
小柳　聡
櫻井麻利子
佐藤孝幸
佐藤里恵
濱藤直人
柳本和貴
横田さおり
渡辺康明

95回Ｓ62年

浅岡俊宏
池田里実

伊藤正洋
上杉知之
小山直久
関川茂樹
武　直子
土田圭一
福田仁史
町田一越
吉中　淳

96回Ｓ63年

荒井重信
石賀洋介
江口　直
江部則行
小栗友美子
鈴木　周
中島正好
橋本　薫
浜田恒平
山岸義晃

97回Ｈ1年

伊藤泰次郎
今井　幸
遠藤啓一
桑野一美
名塚武史
堀越康裕
松川　純
矢部正浩
渡辺信幸

98回Ｈ2年

鈴木広樹
敦井一友
登坂　覚
丸山貴広

99回Ｈ3年

遠藤剛史
鈴木信行
遠山剛志

100回Ｈ4年

安藤栄吾
岩城孝和
加藤貴之
門田美保子
木ノ下智弘
小林一大
佐藤雅史
中村竹志
丹羽恵子
沼　宏一郎
濱　ひとみ
吉原貴之
若槻良宏

101回Ｈ5年

阿部雅也
荒井康弘
伊藤静香
今井教雄
今井慶貴
小川和恵
片桐朋美
上村顕也
小坂昇寛
鈴木由貴子
山口久美子
横井巨人
和賀　諭

102回Ｈ6年

小島祐司
佐藤宗広
髙橋謙介
松澤陽子
宮崎立子

103回Ｈ7年

阿部　司
小林　聡
小林義雄
佐藤弘恵
鈴木康士
細川陽祐
若林健一
鷲尾英一郎

藤井保男
本田正樹
増田勝弥
松原紘
丸山正
右田洋
三国政勝
水野邦生
南貞嘉
村田紀夫
村松信輔
森井滋
山岸恒夫
山岸憲安
山口セツ郎
山宮士郎
横山尚子
横山治夫
吉川正孝
吉田豊
鷲頭宏二
渡部坦
渡辺允雄
渡辺瀁介
渡部美那実

71回Ｓ38年

相田康夫
青柳吉治
阿部尚平
阿部敏弘
天野洋一
五十嵐勤
碇谷正洋
五十嵐敦子
五十嵐修
井田征夫
伊藤邦彦
今井清治
植木巌根
大竹純夫
大野義彰
大場邦雄
大湊幸二
岡崎裕子
小川義一
小黒俊彦
尾崎恵美子
小田嶋壽廣
風間英昭
柄沢卓
川上紘平
河村直美
熊倉哲
小池敏正
小泉淑子
小杉修三
木間勝正
小林軍一郎
小林昭衛
小林碧
小松原秀一
近藤昌敏
近野茂
佐藤彬
佐藤正之
佐藤禮子
菅原宗人
関川正利
関屋真彦
高橋ク二
高橋健造
高橋豊
田中眞人
中野久
中野洋子
中村英一
長井義輝
西尾レン
西埜孝樹
韮澤孝二
野沢坦
野沢正樹

長谷川周壽
長谷川守
羽生清
濱田敏克
早川時雄
平岩武久
福井明彦
藤田昭彦
本田春雄
真柄成一
松原要一
松谷邦憲
丸山鉄彦
丸山紀子
宮川善徳
宮下育子
宮村達男
村山薫
村山克夫
山内幹夫
山下正文
山田耕司
山田征二郎
山本俊介
若林忠
渡辺清雄
渡部一成

72回Ｓ39年

阿部勲
阿部雅子
阿部道行
荒井龍二
井海明
石黒義裕
伊藤美智子
今井美知子
植木和美
上松正次
内山正義
追手巍
大野博
落田真一
金子由征
賀井寛
北村誠作
黒木トシ子
小松久義
近藤正
齊藤俊正
佐々木勝
佐野正俊
三林茂男
篠原一博
渋井和夫
渋井保之
島村礼子
菅又滋
鈴木彪
鈴木理子
高橋悦子
立川克雄
玉木功
塚原弘二
戸田滿弘
冨田由李
富取健彦
内藤豊明
中島彰
中村功
中村民子
丹羽正之
根布秀子
橋本俊彦
樋浦孟
船岡信雄
古山恒夫
本田政春
真柄顕一
牧野秀樹
松永宏五
松原和子
丸田堯

丸山武志
三国正昭
宮村晋
吉田秀穂
和久井和彦
渡辺一重
渡辺国夫
渡辺玄弥
渡辺毅之
渡部正敏

73回Ｓ40年

雨宮則夫
飯塚英明
飯村修
石黒久
石田レイ子
稲野和夫
茨木憲一
大沢義弘
大塚正夫
大原敏廣
岡村繁
小川幹夫
尾口基
小野塚眞一
笠井隆
片桐利雄
金子和弘
解良都代子
小林桂子
近藤東穂
齊藤昭治
齋藤信昭
佐藤敏郎
佐野修
篠田孝
鈴木厚人
関伶子
關野弘賢
袖山要一
高崎進
高島敬二
高橋昇
高橋浩
田島健三
田中光二
鶴木秀司
豊岡示朗
中野治
中原和之
南波祐二
野城眞理
樋口正昭
平川博
藤田慶一郎
本間憲治
皆川雅朋
南英雄
森敬治
山崎一徳
山下俊彦
鰐渕勉

74回Ｓ41年

藍沢幹人
相場哲朗
相場文夫
青海潔
井海範子
五十嵐由之
池一
石本陽子
和泉潤
伊藤幸司
伊藤宏
稲葉伸雄
薄田祥子
江口則男
遠藤京子
大石憲一
大田正孝
大滝均
大森寛

岡村健吉
尾崎俊彦
小原俊雄
風間悦男
風間雄一
鹿島正裕
金井隆夫
金子吉一
賀谷正
川上耕
河崎順昭
河原一彦
木下真由美
木村和彦
倉島敬雄
桑原三恵
解良和郎
小池哲雄
小出信治
古賀良生
小菅大介
小竹孝之
笹川久男
佐藤俊栄
佐藤信秋
佐藤春雄
佐藤裕信
志田常弘
鈴木勝紀
関憲一郎
関川修一
関口賢太郎
高木顕
高橋保
高橋信郎
高橋秀憲
高橋典久
竹之内明
田中秀明
塚野憲一
堤芳夫
戸枝一明
富樫孝一
殿内重政
富澤慶栄
中野克之
永井明彦
西脇雄一
沼田清
波多腰明
番場清
樋口豊
広神俊彦
福田善規
藤田文子
古川兵衛
本間正一郎
本間裕
松田邦宏
松田博人
水本直弥
宮嶋良夫
森澤盾
谷内田健次
柳川紘三
吉川明
若林学
渡辺弘美

75回Ｓ42年

青柳豊
阿部秀作
阿部恒久
有薗順子
五十嵐正
石川茂
石川忍
石澤政夫
石田彰
石田博樹
石橋正利
伊藤啓司
伊藤隆

伊藤哲夫
岩崎義則
上田茂
上原誠一郎
上原恒
薄井勇春
江口芳春
大井裕
大瀧丈司
大塚惠敏子
大野敏雄
大野道子
大原哲三
岡田政文
尾形幸生
小原克己
小柳幹夫
笠井忠
加藤博
川上滋
神田正一
北場勉
北村順作
木村陽子
小泉慈行
小出公平
小島秀男
小島富美子
小林正美
駒村利晴
小山良一
近藤信義
斎藤昭雄
斎藤謙二
坂井克夫
坂井啓二
坂元正広
佐々木珠夫
佐藤邦雄
佐藤啓介
佐藤静一
佐野幹雄
佐野康子
篠田昭
清水純
白井元
白玉謙一
鈴木広志
鈴木正夫
曽我正男
高橋明一
高橋清
高橋正
高橋正明
高橋美樹
多賀美代蔵
田中章
田中純夫
田中壮太郎
田辺英志
田辺静幸
谷澤悦子
谷澤隆邦
玉井正光
玉木正一
富山修一
永井博子
永井道夫
野上紀雄
橋爪博美
服部昭
馬場俊博
檜ケ谷正道
廣川均
藤井春恵
藤田治作
藤縄利勝
星野雅博
堀一
本田晴久
本間均
松村泰夫

丸山義博
三冨修
皆川信
宮純一
宮永進
武藤芳郎
村村木洋子
村山勝
室塚泰二
百都健
森邦雄
八木健
山上卓夫
山崎信行
山田宏明
山田博治
山田優
山根英郎
結城隆行
吉田孝一
渡辺新
渡邊研二
渡辺秀雄
渡邊勝斗
渡邊令子
渡部一俊
渡部信子

76回Ｓ43年

相沢初美
相田光治
青山耕一
明村澄雄
安達修
天野直二
飯田基一
五十嵐博喜
石田芳博
伊奈良重
稲葉徹
遠藤元信
大井戸佐紀夫
大橋誠五
小田高久
尾張明美
恩田雅和
加澤正樹
梶井直文
金子義伸
加野裕資
吉川洋志
桐生和男
櫛谷さわ子
久住治
小島隆平
小林博
近藤修二
近藤壽邦
斎藤栄路
斎藤治
齊藤幸治
齋藤正行
佐田克巳
佐藤俊雄
佐藤悠
菅原正廣
鈴木明
鈴木茂夫
鈴木隆雄
鈴木正博
高倉まち子
竹内誠司
竹内正
武田英徳
田中明
棚橋定衛
太田まゆみ
田巻俊一
田宮洋一
田村俊作
戸枝哲郎
栃倉幸一
中俣正美

中山三喜栄
長井一彦
長北学
長沢菊男
名畑哲雄
西沢芳樹
根津則子
浜倉義昭
浜田正継
林誠
廣川直紀
福田賢一
古川恒一
星野洋子
細谷洋一
本間村紀
三浦まゆみ
水間秀一
箕輪光泰
村山裕一
安田充年
山内春夫
湯本雅恵
吉岡俊
鷺尾栄作
渡辺薫
渡辺力
渡辺春夫
渡辺拡
渡辺雅夫

77回Ｓ44年

赤坂長右
阿部悦雄
荒川恭延
安藤徹
石川彰
石川鋭一
猪股律子
遠藤修司
大嶋彰
大塚忠雄
小澤俊雄
甲斐元久
風間誠
片山等
川崎俊一
キーン誠己
北村一雄
木村哲郎
木村廉平
栗山和広
黒山薫
桑原彰子
小林悟
小林敬明
近藤敬
斉藤厚
齋藤憲
斎藤繁夫
斎藤茂
桜井宗一
佐藤茂
佐藤寿一
佐藤壽秀
清水道雄
瀬野正英
曽我恒有
高野孝治
高橋雅文
高橋康夫
田中悦子
田辺悦雄
田邉重幸
田原隆夫
富田正博
永井恵一
永井透
野澤英之助
生野勝
萩野一廣
長谷川次郎
長谷川実

波田野明
波田野節子
日野浦広昭
藤崎克己
藤吉康志
藤原正博
枡山健一
松崎澄義
丸山修史
三井田実
水野義行
宮田純一
武藤敏明
山崎健
山田民夫
山田恆樹
大和裕子
渡辺隆

78回Ｓ45年

相沢裕吉
相田浩輔
青木孝一
安藤朝夫
五十嵐祐司
板井一彦
伊東真知子
今井高二
岩城文夫
岩瀬耕一
遠藤和男
大久保昌邦
大坂寿男
太田秀樹
太田祐一
小田勇司
金沢宏
金沢泰子
木村和夫
久世隆雄
熊谷克巳
熊木徳次郎
倉井敏磨
倉田龍彦
小泉隆晴
小泉雅義
高坂謙一
小竹豊
児玉英樹
小林辰次
小林直毅
小林信夫
小林雅暢
斎藤庫之丞
齋藤美智子
佐々木巌
志藤洋子
篠田敏朗
清水幸栄
鈴木隆
須田幸子
関尚久
関川久男
曽根正
高橋綾子
高橋隆
高橋豊
田崎大喜
田原次夫
旅川豊
土谷厚
寺尾綾
寺尾英明
長谷川まこと
福原等
細島博志
本田靖博
前田長生
松本洋
水野亨
水本秀樹
皆川信子
向井美夜子

村田光男
矢沢公一
山口正人
山崎一正
山田幸雄
横山泰裕
吉川康三
吉澤哲彦
吉田雄一
吉田弓子
若月秀男
鷲尾正明
渡辺茂
渡辺美映

79回Ｓ46年

会田立人
青山義明
淺井敬一
阿部毅
阿部正弘
五十嵐康之
石井智裕
石田まさ子
石津進
伊藤毅
井上隆二
猪股裕紀洋
今井誠
今井幹文
植木秀任
内山修
江花和郎
大野俊治
岡田均
小田章治
小野章
梶島秀雄
勝山昇
河正子
川合千尋
河野雅子
神林裕
北原宏一
木村公平
木村泰博
久保田愛子
小飯塚稔
坂井豊明
笹川浩一
笹川富士雄
佐々木隆輔
佐藤和明
佐藤久一
佐藤晃一
佐藤たつ子
佐藤俊夫
佐藤富士夫
佐藤玲子
三膳義久
渋谷昇
庄司義興
白井英隆
白井行雄
杉山順爾
関川孝子
瀬戸聡和
髙橋淳二
高橋達夫
竹田篤英
武田邦彦
田阪憲昭
田代文俊
田中隆
玉井美穂
田巻清文
戸枝誠
豊島宗厚
鳥羽正尚
内藤真一
中川徹
西方明良
西川史郎

藤田　宏
藤原信雄
本間淑人
丸山建吾
丸山　稔
向川　恒
宗村　了
村岡公夫
村山国弥
村山　健
矢田昌三
横村一郎
若林瑞穂
渡辺皐哉
和田照子

62回Ｓ29年

青柳正男
五十嵐昭雄
五十嵐邦弥
池田昌之
石黒　恒
石崎　敬
石崎富士臣
石田忠郎
石田　寛
石田幸夫
岩渕　眞
上原　明
内山一雄
内山隆之
大澤澄男
大西浩介
貝津徳男
貝沼由紀
梶井啓右
加藤美明
角家孝之
神成粛一
木村　望
小池健治
河野　開
近　綾子
近藤琢也
近藤哲朗
斎藤隆志
斎藤　健
坂井幸男
佐藤勝彦
佐藤晃一郎
佐藤　恰
佐藤誠也
佐藤信夫
重野直也
杉内　愛
鈴木　勉
鈴木哲夫
曽我　健
髙橋健一
立川国臣
田中昭夫
田中　毅
田村貫次郎
田村恭子
遠山晴夫
外山　啓
中川洋吉
中村洋二郎
中村義一
西野　勲
長谷川舜治
長谷川　慎
原　滋郎
原　正雄
平原康男
福田生一
藤井則忠
藤木　茂
藤山陽三
藤原岑子
帆苅宏典
星野陸夫
堀口忠五
真壁伍郎
枡山　純
丸田康雄
丸田宥吉
三國龍彦
水野　一
湊　一子
嶺　國和
宮本輝夫
村木　修
村山悦朗
本井孝至
守口隆夫
山越寿夫
山本眞弓
吉川達雄
渡辺順司
渡辺　真

63回Ｓ30年

間　潔
赤羽良樹
浅野康一
穴澤祐哉
阿部　聡
荒井　正
五十嵐健治
五十嵐信一郎
五十嵐房子
池　治男
石川庄吾
居城正二
石渡利男
泉　均
市井吉三郎
市川瑞夫
伊藤寿介
伊南純雄
今井幸雄
江口律子
遠藤秀男
大坂　敏
大田　滋
大橋道雄
岡田　靖
小畑忠夫
柏　正平
梶原義郎
金川　博
加野英資
北村壽一
栗田雄三
計良伸正
小島不二
小林章営
小林俊雄
小林洋一
小林洋子
近藤昌泰
白井僖夫
白倉　至
杉山弘道
相墨直彦
相馬　潔
高木研三
高木章介
髙橋知義
高橋昌生
瀧澤一彦
瀧澤正元
竹山行三
團原友之
土田浩平
土屋信之
寺島雅範
戸井田一美
栂坂昌言
中村　瑛
中村輝一
中村道衛
長津栄佐子
難波清松
二階堂　修
二木信行
西村　允
庭山昌明
野口弘二
野口　孝
長谷川潤治
長谷川正
長谷川正勝
平原正男
藤井尚治
藤井　洋
保苅由紀子
星　鉄太郎
本田良二
牧野英二
松井光一
松岡京子
松本欣一
三浦喜代次
水落義樹
南　満寿子
村田　正
村山弘義
山田　力
山田　豊
山根晴子
山宮英樹
山本弘司
山本潤一
油本暢勇
横田美昭
吉田奎介
渡辺昌夫
渡辺要一郎
和田和男

64回Ｓ31年

青木信道
青木昌巳
石山宏治
植村鞆音
内海公子
江口一弥
大石正晃
太田恵子
小川伸一
小熊甚吉
籠島　廣
風間士郎
片桐彰子
柄沢　茂
川崎　明
菊地可寿子
小菅　秋
小林　脩
近　信雄
近藤恭一
斉木幸彦
斉藤邦男
坂井俊一
坂井　敬
佐川清士
佐藤明雄
佐藤　章
佐藤幸治
佐藤茂司
佐藤唯司
柴田史朗
清水裕子
清水良男
鈴木厚生
鈴木　喬
高木睦弘
高橋俊之助
高橋喬樹
高橋正幸
高橋幸雄
田代壮治朗
立川　實
田中堅一郎
田辺元彦
谷　久
田伏正樹
田村康一
田村　進
千原久人
塚本暉磨
坪井正康
中林　弘
西野貢司
庭山暢彦
野村幸雄
畑野晋也
廣川祐之
藤澤靖郎
星　満
星野邦彦
本間義章
桝潟晴夫
松田　勲
三日月賢二
森田一郎
山崎雅司
吉川要輔

65回Ｓ32年

相田　稔
青木　央
浅田和之
安食悟朗
阿部　直
荒川哲夫
飯野勝栄
飯村　厚
五十嵐　徹
池　隆史
石黒　元
伊藤不二男
岩崎荘一郎
岩野一郎
植木昭彦
大野靖雄
大橋修一
大堀隆夫
岡村嘉雄
小川　正
小栗政夫
笠原成美
風間美禰
金子惠三
金巻啓司郎
川合英次
川崎　保
河路明夫
神林純夫
神林恒道
北村　剛
木滑孝一
小林英輔
小林　茂
小林　亘
小湊　繁
近藤昭雄
近藤良雄
笹川敬一
佐藤勝弘
佐藤　孝
佐藤政喜
三林輝夫
三林美奈子
清水正夫
白井三雄
鈴木達昭
鈴木　恒
須田綾英
関本　康
髙木正道
髙橋貞夫
滝澤敏郎
玉木政美
中野三義
中谷一泰
難波勝平
二木　央
根津重行
野崎睦美
樋口英嗣
廣瀬啓子
伏見勝也
藤井　青
堀部国郎
本田紘一
本間忠彦
松木美智子
丸山一敏
三浦進次
水野左敏
宮川忠和
村木利夫
村山黄三郎
村山雅一郎
本宮憲男
山崎耕一
山田松寿
山本和親
鎗居成治
吉井士郎
吉田穂積
渡辺正宣

66回Ｓ33年

青木一男
青木忠允
行形和也
池　政男
池田　葵
今井正雄
岩橋平吉
薄田芳丸
内田並義
榎並義允
江村聖治
太田信浩
小川亮一
小木順一郎
乙川正次
加藤孝子
加藤靖夫
金子兼三
金子義信
川原英夫
神田征輝
熊谷國男
小泉正俊
小出秀二
小林啓志
小林裕子
小林嘉三
近藤宏一
里村和彦
下川友也
鈴木興春
鈴木　幸
鈴木滋弥
鈴木　隆
関　篤司
高島敬子
高橋卯喜男
竹石健一
田村元吉
富田俊枝
中谷藤太郎
二宮靖彦
野水雅行
乗松尋道
橋本　誠
橋本　梁
長谷川精一
樋口博行
廣澤憲隆
福地利明
藤田佐津紀
堀江昭雄
本間請子
松沢　孝
松本瑞夫
丸岡　央
水野健治
宮沢一彦
村木健二
八木　純
八木　喬
矢崎善則
矢部直子
山口喜康
山口　信
山崎　稔
横瀬　功
吉田六左エ門
若林　昭
渡辺喜光
渡邊孝男
渡辺正弘
渡辺　操

67回Ｓ34年

赤澤　宏
味方繁夫
阿部紘一
阿部　智
池　隆夫
石井恵子
石井幹男
石田瑞穂
市原昭一
伊藤紀朗
今泉信作
大滝正通
大野敏昭
岡崎　功
小川　宏
奥村紀男
鍵冨靖雄
片山忠一
加藤　弘
川口　襄
川崎ヒロ子
川崎昌彦
岸田興治
北川　寛
北場勝也
君　英夫
木村美智子
桐生和昌
倉島邦彦
小林晋一
近藤栄子
斉藤久美子
佐川八重子
佐々木邦夫
佐藤　豊
塩原　満
清水雄伍
白井　節
菅沼重登
杉山直久
関根昭一
瀬下一三
髙野宏一
髙橋三郎
髙橋　仁
髙橋直也
髙橋信夫
滝沢　元
竹内正明
田中　収
田中直史
寺井　宏
堂垣内弘一
中嶋　稔
中野　仁
西　章
橋本秀子
濵田達郎
原　敬治
一柳　肇
廣瀬　弘
広野達彦
星　允
堀川　楊
本間　寛
前田康久
間口龍郎
真島紘一
松井建吾
松島啓二
丸山英治
見田　進
三堀　浩
皆川　学
村山　実
保田　勲
山際　肇
山田　穣
吉田一郎
渡辺　脩
渡部　透
渡部　康

68回Ｓ35年

赤塚五十二
安達賢司
安達雅巳
安孫子晋治
阿部俊明
阿部尚武
伊佐早幸男
石黒正子
石橋輝樹
礒辺　潔
岩原修爾
薄田詔二
奥村ミイ
小田公幸
小野塚芳雄
片桐靖孝
加藤健一
加藤ト モ
加藤達雄
上村敦子
上村晃一
上村嶺子
神田性以智
北村泰作
草野　佐
久保田幸郎
小島専吉
駒林進四郎
小師幸雄
近藤義雄
齋藤重信
齋藤正果
佐々木賢介
佐藤　薫
佐藤公子
佐藤広則
澤田　勉
鈴木喜也
関　隆二
関川利男
関口徹雄
関根紀一郎
関野　敏
髙見　潔
竹石　肇
田中康一
田中宣男
田中光弥
田辺　稔
池主憲夫
土田　正
中島輝雄
中村輝夫
中村秀子
長沼佑幸
西原　徹
畑山　勉
濱田庄司
広川忠夫
福田良子
藤崎昌彦
藤田　実
堀内　孝
松橋英夫
松原伸子
丸山和子
丸山　弘
村山幸夫
森田浩二
梁取　健

70回Ｓ37年

若松昌弘
渡部治子
渡邊泰彦

69回Ｓ36年

青木利祐
阿部治男
阿部正昭
伊海田英夫
池田正夫
石本隆太郎
居城　弘
今井昭雄
入山哲郎
岩尾信宏
内山康雄
大川昭一郎
大関久美子
大谷勝美
大森ゆかり
小川敏子
小黒朋弘
小澤武文
鍵冨雅雄
笠原　弘
片山厚生
加藤　滉
菊池利男
木田富士男
木戸恵子
久保田昌敏
黒井幸一
小出　紘
幸田赳夫
小島健二
後藤　宏
斎藤　昭
斎藤国雄
斎藤駿介
斉藤正夫
坂爪征基
篠川　旦
佐藤　彬
佐藤孝靖
塩沢拓夫
清水一男
朱　敏秀
城田敬子
菅井幹夫
菅沼　浩
鈴木将夫
曽我紘一
高杉昭二
高橋正卓
高橋義教
玉木　清
田巻靖雄
敦井栄一
寺尾芳樹
栃倉　浩
富所忠男
堂垣内　亨
永井晴美
鍋谷康次郎
新田公子
野崎武敏
長谷川裕之
樋口正臣
平野光一
細野義彦
本間禎介
本間　譲
松岡由紀子
的場義夫
水野美智子
村上則彦
矢川一義
山田　栄
横山嘉夫
吉野國夫
両川政道
渡辺国正

70回Ｓ37年

井口禮里
池田好正
石井幸子
石井鐐二
石原　誠
伊藤万里
伊藤善允
猪口　孝
今井正昭
岩脇秀廸
牛沢克巳
歌川亨一
江口光夫
大塚哲夫
小川弘良
小川瑞枝
小沢欣治
小幡清司
笠原大仙
風間秋利
加藤邦紘
加藤清策
加藤奠三
金子健三
金子正史
川島崎夫
川田昌人
北村雅英
久代秀雄
栗山勝博
栗山淳一
桑原和雄
小泉和代
小嶋桂吾
小谷桂子
小林紀昭
小山山正一
近藤　東
近藤光男
斉木孝雄
斎藤忠正
齋藤典子
齋藤弘道
坂井政行
酒井ゆき子
佐川幹恵
佐藤義秋
塩原　聰
志賀安雄
品田悦孝
菅原一雄
杉本正義
須藤寛人
関口明子
関根俊明
高野義樹
髙橋治夫
瀧波祐助
竹山洋之
田中　信
田中由夫
田辺　豊
田村信昭
團原和子
鶴木勇夫
弦巻　洌
内藤榮樹
中村啓二
西田牧衛
西丸　功
新田誠一
橋本　修
花輪　治
馬場照恵
日江井敦子
福井紘一
藤井朝子

平成 26 年度　青山同窓会会費納入者

（H 26. 4 . 1 ～H 27. 3 .31）

４月より９月末まで納入いただいた方を掲載しております。10 月以降に納入された方は次号に掲載いたします。

会費を納入していただきますと「青山同窓会報」を毎号お届けいたします。申し訳ありませんが､納入のない方には「会報」をお送りすることができなくなってしまいます。本年度未納の方は是非３月までにお振り込みくださいますようお願い申し上げます。

平成 27 年度会費納入のお願いと振込用紙は、平成 27 年度総会のご案内と一緒にご郵送いたします。

全日制と通信制を併わせ、振替口座を統一しましたのでご注意願います。

１口　1,000 円。できるだけ２口以上でお願いいたします。

振込先：郵便振替口座

全日制・通信制　００６５０－７－４４５５　青山同窓会

全日制

31回Ｔ13年
松井道夫

36回Ｓ4年
風間忠雄

40回Ｓ8年
鈴木保穂
真柄慎平

41回Ｓ9年
金子清
神田明
高田弥彦

42回Ｓ10年
広沢斉

43回Ｓ11年
笹川謙録
早船春洋
渡部一郎

44回Ｓ12年
小池寿哉
小泉大三
高野伸三
星野圭
宮川一郎

45回Ｓ13年
笠原義春
小島平彌
長谷川渙
綿井兵衛

46回Ｓ14年
江口松弘
大津任
鍵冨春雄
熊谷大輔
佐藤正利
下勇
手島恵昭
藤巻貫
横山隆二

47回Ｓ15年
岩谷又武
倉井整
斎藤良介
志賀武司
杉山弘治
中村正秀
吉田富忠

48回Ｓ16年
秋元俊明
北村英朗
佐藤忠一郎
鈴木勇
土田節也
廣瀬努
吉川三吉

49回Ｓ17年
稲泉武男
梶山勝清
駒林行弘
酒井忠正
佐藤武雄
中野重孝
仁保武人
弘中博元
舟崎裕二郎
水本正弥
八木敦

50回Ｓ18年
五十嵐清
池田成徳
池田信彦
犬井政榮
勝見秀也
上村光司
小林淳郎
渋谷武
瀬谷誠
髙橋忠行
寺田秀夫
中林茂之
長谷川健作
長谷川陽三
水野哲郎
村山一
山田璋治
吉澤績
吉村武郎
渡辺欣次

51回Ｓ19年
青木智
荒井奥弘
今泉笑顔
歌川正博
大関雄策
大山龍蔵
岡本耕治
小野芳一
金巻保男
川瀬熙
北村茂
小宮富郎
斉藤素一
笹川重男
菅野浩
杉山久雄
鈴木誠二
千葉繁太
長谷川直大
樋口正蔵
藤井一郎
藤井英克
細貝繁男
真島建
真野量次
三村一郎
八木野恒夫
横木義男

52回Ｓ20年
青山秀
阿部秋由
安藤一郎
安東道夫
石崎昭一
大津裕
岡崎昭兒
奥山實
岸田二郎
木村元衛
小嶋嘉彦
齋藤泰五郎
佐藤秀夫
佐藤陽二
澤田義郎
真保禎二
鈴木昭
関口次郎
坪谷誠
冨取德夫
永井淳一
成田昭一
野崎一朗
早川纂之助
廣川勲
廣川昭二
古川幸夫
三井田彦二
村島滋
山崎利兵衛
吉田赳
渡邊亘
亘隆

53回Ｓ20年
荒木典雄
飯島銈良
飯田洋一
飯野俊栄
稲月作之助
上杉純一
内山昭三
大倉憲吾
大滝侃市
小林松郎
近泰男
坂井武夫
佐藤昭太郎
鈴木俊英
高橋英一
高橋勝彦
高松和丸
高山義一郎
田崎国夫
玉木將二郎
丹後源太郎
長道雄
津野務
手島修
中村弘道
中山政夫
野口国典
野田俊作
野田栄次郎
広野究
藤田英治
堀時男
正木宏
宮路陽一
盛山淑郎
諸橋莞治
山作房之輔
山崎典夫
山田豊
渡辺義隆

54回Ｓ21年
斎藤雅彦
佐藤壮一
保倉修

55回Ｓ22年
青山昭郎
新井勝龍
石本林三
今井兼智
今湊良敬
大島壮一
笠原孝雄
片岡啓一郎
金井良司
金子隆弘
小島健一
笹谷哲也
庄司元一
鈴木俊雄
早福卓
高橋輝雄
高橋弘
高橋安
千葉繁治
土田達禅
常木剛
富所壽男
外山清
中田繁夫
星井正春
本間義治
前田利雄
松浦徳雄
宮尾益敏
武藤輝一
山崎賢二
山田甚平
吉澤有介
吉原賢二

56回Ｓ23年
赤坂長弥
朝比奈和三
飯島昌弥
井上幸衛
猪股成美
今城信敬
岩瀬玲二
上田宏
浦野説衛
江口直禎
大田宏
大竹多計二郎
大沼淳
笠原健一郎
加藤勝則
岸野健一
清野誠二
小島直孝
小嶋芳郎
古寺嘉夫
小松重男
髙塚勝吉
高松昭
田中孝
中山昭一
中由正男
南雲照三
野沢英雄
畠山茂
早川潔
伴昭彦
深滝英彦
堀藤四郎
松井昭五
村川順三
目黒剛
山崎洪二
横山芳郎
若槻馨

57回Ｓ24年
武山恒男
室谷昇平
渡辺好博
網干道雄
上村幹雄

58回Ｓ25年
青柳廣士
赤塚行司
浅田秀雄
阿部隆
安倍豊
植村末哉
内山準之助
大関允良
大山芳郎
岡田耕衛
小熊勇司
風間庫一郎
片桐欣哉
加藤高弘
金沢栄二
神田勉
木村善章
小林一男
小林正吉
近寅彦
近藤信夫
斉木利雄
坂井熙一
佐藤俊彦
佐藤弘
里村専精
白井博
曽我浩
高田龍介
種村祥一
大門啓治
中川弘
永井克孝
波田野松重
早川哲夫
平田次彦
福島惣吉
藤崎茂
藤村洋
本間庄二
前田三郎
間島速雄
松浦祥夫
宮川幸司
宮沢昭
渡辺達夫
和田憲雄

59回Ｓ26年
相川義信
青木久馬
旭祐善
安食裕夫
阿部進
新川滋
飯村康一
五十嵐哲夫
池田修次
石山芳昌
市川鉄夫
伊藤瑞
牛木素吉郎
内田進一
大石正夫
岡田久
小熊英夫
小柳佳一郎
笠井駸
勝見右
金巻久
河合德壽
川上忠男
菊地晴彦
菊池裕
清野孝一
倉品克明
栗林貞夫
栗林重夫
栗林貞一
小城一廣
小林圭次
小松原金二
佐藤純一
佐藤進
茂泉喜彦
品田茂博
渋木幸三
白井三男
鈴木誠一
関野光弘
髙橋晴夫
髙橋正利
髙橋陽一
髙山昇二郎
田辺治
種岡健
塚田俊夫
中野文郎
長島一郎
長橋敏雄
納谷喜郎
西脇諭
能登省三
畠中勝
花井進
早山康之
藤田八郎
藤由学
藤原幸雄
堀滋久
宮田兼好
山田和雄
山田一介
山宮英世
吉川篤
吉川文雄
吉田陽吾
渡邉敏男
渡辺初男
渡辺満

60回Ｓ27年
井海孝
五十嵐邦一
五十嵐健一
五十嵐弘
伊狩三喜男
池浦厚司
池田和之
池端哲
石黒忠士
泉精司
市川豊
伊藤貞夫
入山文郎
上杉雅之
内山真一
大田英男
大橋威
岡村嘉志
小川秋実
奥田達也
落合夏樹
甲斐佐智男
加賀田實
笠原功
片岡眞
金山常吉
河田鐵雄
神田三夫
金塚尚
熊谷忍
熊倉正司
熊倉登
小石光夫
小出直
小島洋吉
小林吾郎
小林進一郎
小林亨
小林満
小山功
齋木守雄
齊藤邦夫
坂口英一
佐々木城
佐藤孝
清水悌作
杉野剛博
高城英雄
髙橋栄明
田辺寛
田村和郎
戸川正弘
徳田浩一
富山佑男
中田亨
中村信夫
中山弘
長橋洸
成田禎作
野村保夫
橋本行雄
長谷川秀三
長谷川信夫
濱田達三
早川貞夫
早武正博
平田大六
廣川達郎
広瀬欽次郎
藤本剛
星野昭夫
星野昇
本間一浩
松井幸彦
丸山敏視
水野哲雄
向井和夫
宗村健吾
矢川和偉
矢崎芳直
山崎健
山崎賢隆
山崎峯平
山田誠
渡邊修
渡辺祐吉

61回Ｓ28年
浅間道子
浅見昭夫
安宅久憲
阿部亜生
阿部徳治郎
安藤友憲
池田元嘉
石井淳
石井壯一
石崎秀臣
石山謹治
居城慶一
伊藤英子
伊藤良介
稲垣甫玄
今井晃
江口良助
江村隆三
太田賢輔
太田二郎
大滝儷子
大野恭信
奥村啓一
加藤榮一
神山治郎
川井達夫
川崎栄一
北村富士雄
木田満洲男
木村昇
木村政雄
草間光俊
熊谷隆幸
倉茂周典
小出廣記
小杉秀一
小林孝司
小林貞夫
小林元雄
齋藤義明
佐久間洋一
佐々木繁
佐藤敏夫
佐藤眞武
塩谷明
柴田實
須貝伸三
菅原和明
助川孝雄
巣山誠之
関根理
関矢和男
高野恒行
滝沢哲也
竹尾昇
竹山恒夫
田中宣
田中忠夫
徳田晋也
富川龍之
中野進
中村雄彦
中村龍雄
長沼雄峰
庭山熙彦
野俣徹
長谷川義明
長谷部良雄
浜口福寿
番場道夫
藤井真夫
藤崎隆三
藤田太郎